

平成28年 月 日

兵庫労働局 総務部長 殿

株式会社エールエフ関西  
代表取締役 山本 玉明



## PCB調査報告書

### 1. 調査対象物件

所在地 : 明石市大久保町谷八木字奥北野1191-50

※ 所在地:明石市大久保町谷八木字奥北野1191-50

場所 : 大久保宿舎

調査箇所 : 宿舎1号棟、宿舎2号棟、自転車置場他

### 2. 調査期間

調査実施日 : 平成28年11月 5日

### 3. 調査手法

- (1) 業務場所の建物及び備品(照明器具)について、PCBの使用の有無を調査し、報告書を提出する。なお、物置等の付属建物及び自転車置き場等の工作物が設置されている場合は、主たる建物に含めて調査する。
- (2) PCBの使用が見込まれる工作物及び備品(照明器具等)について、現地においてリストアップし、メーカー名、製造年月日及び品番・型番等を調査する。
- (3) リストアップした工作物及び備品(照明器具等)について、各メーカーに照会調査を行うとともに、建物の建築年月日も参考の上、PCBの使用の有無を判断する。
- (4) 調査の結果、PCBの使用が認められるものがある場合は、その後の対処方法を策定する。一方、PCBの使用の有無について判定できないものがある場合は、その理由を明記するとともに、対処方法を策定する。
- (5) 対処方法の策定について、PCB含有物の撤去費用のほか、更なる分析調査を行う必要があるなど新たに費用が発生する場合は、概算費用の見積もりを行う。

### 4. 調査結果

既設照明器具、安定器、コンデンサを調査しメーカーへ照会等を行った結果、表1-1～表3-1のとおり、PCBの使用は認められなかった。

表1-1 ～ 表1-9 宿舎1号棟

表2-1 ～ 表2-5 宿舎2号棟

表3-1 外部

### 5. 添付資料

- ・写真
- ・PCB使用有無証明書

表1-1 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

部屋番号	設置場所	PCB使用の可能性のある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考	
		種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番				
101	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
102	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明	
	居室																
	玄関	白熱灯			1										無し		
	浴室	白熱灯			1										無し		
	便所	白熱灯			1										無し		
103	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明	
	居室																
	玄関	白熱灯			1										無し		
	浴室	白熱灯			1										無し		
	便所	白熱灯			1										無し		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明	
	居室																

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表1-2 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性のある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番			
104	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
105	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															
	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
106	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															
	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表1-3 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

部屋番号	設置場所	PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考	
		種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番				
201	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
	台所	蛍光灯	ナショナル	HW2950T-RAF	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15							無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16							無し	メーカー証明
202	居室																
	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15							無し	メーカー証明
203	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16							無し	メーカー証明
	居室																
	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15							無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16							無し	メーカー証明
	居室																
	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタート式の一般家庭用蛍光灯

表1-4 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番			
204	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
205	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															
	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
206	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															
	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表1-5 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番			
301	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
302	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															
	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
303	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															
	玄関	白熱灯			1									無し		
	浴室	白熱灯			1									無し		
	便所	白熱灯			1									無し		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明	
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表1-6 (宿舎1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性のある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考	
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番				
304	玄関	白熱灯			1									無し			
	浴室	白熱灯			1									無し			
	便所	白熱灯			1									無し			
305	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明		
	居室																
	玄関	白熱灯			1									無し			
	浴室	白熱灯			1									無し			
	便所	白熱灯			1									無し			
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明		
	居室																
	玄関	白熱灯			1									無し			
306	浴室	白熱灯			1									無し			
	便所	白熱灯			1									無し			
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22038	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明		
	居室																

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表1-7 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所	PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考	
	部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日			型番
401	玄関	白熱灯				1									無し	
	浴室	白熱灯				1									無し	
	便所	白熱灯				1									無し	
402	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															
	玄関	白熱灯				1									無し	
	浴室	白熱灯				1									無し	
	便所	白熱灯				1									無し	
403	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22038	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															
	玄関	白熱灯				1									無し	
	浴室	白熱灯				1									無し	
	便所	白熱灯				1									無し	
404	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22038	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性がある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表1-8 (宿舍1号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番			
404	玄関	白熱灯			1										無し	
	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
405	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22038	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															
	玄関	白熱灯			1										無し	
	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22038	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															
	玄関	白熱灯			1										無し	
406	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22038	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯



表2-1 (宿舎2号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

部屋番号	設置場所	PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考	
		種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番				
211	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
	洗面所																
	便所	白熱灯			1											無し	
212	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明	
		蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明	
	居室																
	玄関	白熱灯			1										無し		
	浴室	白熱灯			1										無し		
	便所	白熱灯			1										無し		
	洗面所																
	便所	白熱灯			1										無し		
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明	
	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明		
居室																	

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表2-2 (宿舍2号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番			
221	玄関	白熱灯			1										無し	
	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
	洗面所															
	便所	白熱灯			1										無し	
222	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
		蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															
	玄関	白熱灯			1										無し	
	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
	洗面所															
	便所	白熱灯			1										無し	
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル			FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明
		蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯

表2-3 (宿舎2号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

部屋番号	設置場所	PCB使用の可能性がある照明器具				安定器						コンデンサ			PCBの有無	備考	
		種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番				
231	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
	洗面所																
	便所	白熱灯			1											無し	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15							無し	メーカー証明
232		蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16							無し	メーカー証明
	居室																
	玄関	白熱灯			1											無し	
	浴室	白熱灯			1											無し	
	便所	白熱灯			1											無し	
	洗面所																
233	便所	白熱灯			1											無し	
	台所	蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111299	GX2011MA-15							無し	メーカー証明
		蛍光灯	ナショナル	FA22034-R64	1	ナショナル		FZ20111300	GX2011MA-16							無し	メーカー証明
	居室																

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースター式の一般家庭用蛍光灯

表2-4 (宿舎2号棟部屋内)PCB調査結果一覧表

設置場所		PCB使用の可能性がある照明器具					安定器					コンデンサ			PCBの有無	備考
部屋番号	設置部屋	種類※1	メーカー	本体型番	台数	メーカー	製造年月日	品番	名番	電気用品番号	メーカー	製造年月日	型番			
241	玄関	白熱灯			1										無し	
	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
	洗面所															
	便所	白熱灯			1										無し	
242	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111299	GX2011MA-15						無し	メーカー証明
		蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル		FZ20111300	GX2011MA-16						無し	メーカー証明
	居室															
	玄関	白熱灯			1										無し	
	浴室	白熱灯			1										無し	
	便所	白熱灯			1										無し	
	洗面所															
	便所	白熱灯			1										無し	
	台所	蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル			FZ20111299	GX2011MA-15					無し	メーカー証明
		蛍光灯	ナシヨナル	FA22034-R64	1	ナシヨナル			FZ20111300	GX2011MA-16					無し	メーカー証明
	居室															

※1:PCB脂溶性の可能性のある照明器具の種類は、①蛍光灯(④を除く)、②水銀灯、③低圧ナトリウム灯、④グロースタータ式の一般家庭用蛍光灯





大久保宿舎における地下埋設物調査業務

報 告 書

平成 30 年 9 月

株式会社シードコンサルタント



## 目 次

1. はじめに	1
2. 作業概要	1
3. 作業手順	3
4. 現地調査結果	4
5. 埋設物集計	5
6. 予想埋設物量	7
7. 埋設物撤去について	8
8. 土壌汚染対策について	9
9. 総合所見	10

### 添付資料

- ・ 調査地平面図
- ・ 掘削調査結果
- ・ 現場写真
- ・ マニフェスト
- ・ 業務計画書

## 1. はじめに

本業務計画書は、大久保宿舎における地下埋設物調査業務を行うに当たり、掘削、仮置き、舗装切断及び撤去、埋設物調査、埋め戻しを現地にて実施した。本報告書はこの調査をとりまとめたものである。

## 2. 工事概要

2-1 業務名称 : 大久保宿舎における地下埋設物調査業務

2-2 業務場所 : 明石市大久保町谷八木 1191-51、1191-53



2-3 業務面積 : 設計 : 掘削総面積 194 m<sup>2</sup>、切断総面積 121 m<sup>2</sup>  
実施 : 掘削総面積 169.1 m<sup>2</sup>、切断総面積 269.1 m<sup>2</sup>  
※掘削幅 0.5m、切断幅 1.25m

2-4 業務期間 : 平成30年6月7日～9月7日

2-5 調査業者 : 株式会社シードコンサルタント  
〒630-8114 奈良市芝辻町2丁目10-6  
TEL 0742-36-7013  
FAX 0742-36-7008

### 3. 作業手順

#### [概要]

仕様書所定の位置で、アスファルト(As)舗装を剥ぎ取り、土壌掘削(探り掘り)を行い埋設物の有無を確認し、埋め戻し、舗装復旧を行う手順を示したものである。

なお、アスファルトにて舗装されている箇所については、これらを切断・撤去のうえ調査を実施した。(排水枡や自転車置場等の工作物が設置されている箇所は掘削を実施しなかった)

#### 3-1 仮設工

- ・ 出入口の柵の解除
- ・ アスファルト舗装のカッター切断(カッター幅 1.25m)
- ・ 養生シート敷設
- ・ アスファルト舗装剥ぎ取り処分

#### 3-2 掘削(探り掘り)及び埋設物調査

- ・ 掘削は、バックホウ(0.11m<sup>3</sup>クラス)にて埋設物が存在するかどうかを確認しながら実施し、必要に応じて人力掘削を実施した。掘削幅0.5m、掘削深度0.5m、延長4.0mを1ユニットの基準として実施した。掘削間隔は2mを基本とし、最大掘削深度は1.5mであるが、地山の出現及び湧水時はその出現深度までの調査とした。
- ・ 埋設物発現の場合及び掘削終了時にその状況を記録・写真撮影を実施した。

#### 3-3 埋め戻し

- ・ 埋設物確認完了後、仮置きした掘削土を元の位置へ、転圧を行いながら埋め戻しを実施した。なお、埋設管等を破損させた場合は修復し埋め戻しを行った。

#### 3-4 復旧

- ・ 埋め戻し完了後、土または砕石土による埋め戻しによる整地を実施した。

#### 3-5 後片付け

- ・ 保安設備等後片付け清掃を行い、出入口の柵を現状回復を行った。

#### 3-6 資料整理及び報告書作成

- ・ 状況記録及び写真を整理し、本報告書にまとめた。

#### 4. 現地調査結果

本調査で実施した埋設物調査についてまとめた。巻末資料に調査地平面図、各トレンチ毎の詳細を埋設物の分布状況図を示す。調査時の記録写真は巻末にまとめた。

調査位置は調査地平面図の通り、宿舎を中心とし、南西側のアスファルト舗装の駐車場西端部をトレンチ①として反時計回りに 12 箇所、受水槽などがある中庭付近に⑬～⑮及び⑲・⑳の 5 箇所、南東側のアスファルト舗装駐車場で⑰～㉒の 7 箇所、建物北側にて㉓・㉔・㉗～㉚の 6 箇所、建物西側の㉛と計 31 トレンチ、89 区画にて実施した。

全体的な所見として、表層はアスファルト及び砕石層又は表土にて 20～40cm 程度覆われており、その下部に盛土層である礫混じり粘土質砂を主とし、コンクリートガラ等が混入する本調査主対象層が約 1.3m 程度の厚さで盛土として整地されていた。盛土層の下部は旧耕土で稲の混入などがみられ、灰色～暗灰色を呈する粘性土で構成される。旧地形の使用用途は田んぼであったと考えられる。アスファルトガラなどの混入物はこの地層からは確認できなかった。この旧耕土を地山層として扱い、地山層の出現を持って本調査の掘削下限とした。

本調査地での混入物はコンクリートガラを主体とし、アスファルトガラ、木片や木杭等、玉石、煉瓦片などがほぼ全域にて確認できた。また、調査地端部の一部では焼却灰と考えられる炭化物と廃棄物（ビニール片・煉瓦片他）を多数含む層が部分的に確認できた。

本調査地の駐車場で南西側駐車場の北西端部、南東側駐車場の南東側に浄化槽が設置されていたという資料があり、同地点にてコンクリート基礎及びコンクリート製枠などが確認できた。内部は土砂で埋まっており、浄化槽自体は確認できなかったため撤去後に基礎のみを残し埋め立てられたと考えられる。浄化槽の深さは 1.5～2.0m 程度と推察する。

また、トレンチ⑬東端部等にて表層下 30cm に板状コンクリートが確認され、それ以上の掘削は不可能であった。また、トレンチ⑲では西側建物から伸びていると考えられるコンクリート製基礎が確認されたが、東隣のトレンチ⑳では確認できなかったため途中までの設置であることが考えられる。

## 5. 埋設物集計

本調査にて得られた埋設物について集計を行った。

集計結果として、本調査調査面積は  $169.1\text{m}^2$  (トレンチ幅は  $50\text{cm}$  とした)、掘削総体積は  $206.65\text{m}^3$ 、確認された埋設物合計は  $8.266\text{m}^3$  となった。

表 5.1 に埋設物集計一覧表を示す。

表 5.1 埋設物集計一覧表

場所区分	トレンチ形状			混入埋設物 (撤去済)			混入埋設物 (埋設)			撤去済み埋設物 堆積(m³)	埋設済み埋設物 堆積(m³)	合計埋設物 体積(m³)	トレンチ表 面積(m²)	トレンチ 掘削体積 (m³)	埋設物 割合(%)
	トレンチ 番号	トレンチ 長さ(m)	トレンチ 深さ(m)	埋設物 長さ(m)	埋設物 幅(m)	埋設物 高さ(m)	埋設物 長さ(m)	埋設物 幅(m)	埋設物 高さ(m)						
西側駐車場	①-1	4.00	1.00				0.75	0.75	1.20		0.675	0.675	2.00	2.00	33.75
	①-2	4.00	1.00	0.30	0.40	2.50	1.80	0.20	0.50	0.3	0.18	0.48	2.00	2.00	24.00
	①-3	5.00	1.00	1.50	0.40	1.00	0.90	0.10	0.60	0.6	0.054	0.654	2.50	2.50	26.16
	②-1	4.00	1.00										2.00	2.00	0.00
	②-2	4.00	1.00	0.60	1.00	0.40	0.15	1.00	1.80	0.24	0.27	0.51	2.00	2.00	25.50
	②-3	5.00	0.90				0.15	1.00	0.80		0.12	0.12	2.50	2.25	5.33
	③-1	4.00	1.20	0.80	0.60	0.15				0.072		0.072	2.00	2.40	3.00
	③-2	4.00	1.50	0.45	0.55	0.15				0.037125		0.037125	2.00	3.00	1.24
	③-3	4.60	1.50	1.10	0.50	0.30	0.60	0.60	0.30	0.165	0.108	0.273	2.30	3.45	7.91
	④-1	4.00	1.00	0.25	0.20	0.20				0.01		0.01	2.00	2.00	0.50
	④-2	4.00	1.50	1.60	0.60	0.15				0.144		0.144	2.00	3.00	4.80
	④-3	4.40	1.50	0.40	0.40	0.15				0.024		0.024	2.20	3.30	0.73
	⑤-1	4.00	0.85	0.30	0.40	0.10				0.012		0.012	2.00	1.70	0.71
	⑤-2	4.00	1.50	0.20	0.60	0.30				0.036		0.036	2.00	3.00	1.20
	⑤-3	4.00	1.45										2.00	2.90	0.00
	⑥-1	4.00	0.50	1.00	1.00	0.40	2.00	0.50	0.20	0.4	0.2	0.6	2.00	1.00	60.00
	⑥-2	4.00	0.35				4.00	0.50	0.20		0.4	0.4	2.00	0.70	57.14
	⑥-3	4.20	1.50				0.50	0.35	0.25		0.04375	0.04375	2.10	3.15	1.39
	⑦-1	4.00	1.00	0.50	0.40	0.20	1.80	0.30	1.00	0.04	0.54	0.58	2.00	2.00	29.00
	⑦-2	4.00	1.00	0.60	0.80	0.30	1.80	0.25	0.30	0.144	0.135	0.279	2.00	2.00	13.95
	⑦-3	3.20	1.00										1.60	1.60	0.00
	⑧-1	4.00	0.85	0.40	0.40	0.30	1.00	0.20	0.10	0.048	0.02	0.068	2.00	1.70	4.00
	⑧-2	4.00	1.45	0.20	0.20	0.20	0.50	0.40	0.10	0.008	0.02	0.028	2.00	2.90	0.97
	⑧-3	3.00	1.45				0.30	0.10	0.05		0.0015	0.0015	1.50	2.18	0.07
	⑨-1	4.00	1.00				2.20	0.50	0.30		0.33	0.33	2.00	2.00	16.50
	⑨-2	4.00	1.50				0.60	0.90	0.30		0.162	0.162	2.00	3.00	5.40
	⑨-3	3.50	1.50				0.70	0.60	0.20		0.084	0.084	1.75	2.63	3.20
	⑩-1	4.00	1.20	0.40	0.40	0.30				0.048		0.048	2.00	2.40	2.00
	⑩-2	4.00	1.20										2.00	2.40	0.00
	⑩-3	3.50	1.40										1.75	2.45	0.00
	⑪-1	4.00	1.50	0.60	0.50	0.15				0.045		0.045	2.00	3.00	1.50
	⑪-2	4.00	1.50	0.60	0.50	0.20	0.30	0.30	0.50	0.06	0.045	0.105	2.00	3.00	3.50
	⑪-3	2.30	1.50	0.15	0.15	0.15	0.30	0.30	0.50	0.003375	0.045	0.048375	1.15	1.73	2.80
	⑫-1	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00
	⑫-2	4.00	1.50	0.50	0.50	0.10				0.025		0.025	2.00	3.00	0.83
	⑫-3	2.50	1.40										1.25	1.75	0.00
	⑬-1	4.00	1.00	0.50	0.50	0.20				0.05		0.05	2.00	2.00	2.50
	⑬-2	4.00	1.00	1.00	0.10	0.30				0.03		0.03	2.00	2.00	1.50
	⑬-3	4.00	1.00	0.70	0.80	0.85				0.476		0.476	2.00	2.00	23.80
	⑭-1	3.50	0.60				0.30	3.50	0.10		0.105	0.105	1.75	1.05	10.00
⑭-2	5.00	1.00										2.50	2.50	0.00	
⑭-3	5.70	1.45	1.25	0.60	0.15	1.00	0.20	0.10	0.1125	0.02	0.1325	2.85	4.13	3.21	
⑮-1	4.00	1.30	0.30	0.30	0.15				0.0135		0.0135	2.00	2.60	0.52	
⑮-2	4.00	1.30										2.00	2.60	0.00	
⑮-3	1.00	1.30										0.50	0.65	0.00	
⑯-1	4.00	1.30										2.00	2.60	0.00	
⑯-2	4.00	1.40	0.30	0.30	0.15				0.0135		0.0135	2.00	2.80	0.48	
⑯-3	1.50	1.45										0.75	1.09	0.00	
⑰-1	4.00	1.40										2.00	2.80	0.00	
⑰-2	4.00	1.40				0.40	0.70	0.10		0.028	0.028	2.00	2.80	1.00	
⑰-3	1.90	1.40										0.95	1.33	0.00	
⑱-1	4.00	1.20										2.00	2.40	0.00	
⑱-2	4.00	1.50				0.50	0.20	0.15		0.015	0.015	2.00	3.00	0.50	
⑱-3	2.70	1.45										1.35	1.96	0.00	
⑲-1	4.00	1.30										2.00	2.60	0.00	
⑲-2	4.00	1.40										2.00	2.80	0.00	
⑲-3	2.00	1.40										1.00	1.40	0.00	
⑳-1	4.00	1.20	0.70	0.40	0.10	0.60	0.50	0.30	0.028	0.09	0.118	2.00	2.40	4.92	
⑳-2	4.00	1.40	0.80	0.80	0.25	0.80	0.50	0.10	0.16	0.04	0.2	2.00	2.80	7.14	
⑳-3	2.30	0.30				2.30	0.50	0.10		0.115	0.115	1.15	0.35	33.33	
㉑-1	4.00	1.30	0.60	0.40	0.30	0.30	0.30	0.20	0.072	0.018	0.09	2.00	2.60	3.46	
㉑-2	5.00	1.30	0.50	0.10	0.20	3.30	0.20	0.20	0.01	0.132	0.142	2.50	3.25	4.37	
㉑-3	4.00	1.50	0.30	0.30	0.20				0.018		0.018	2.00	3.00	0.60	
㉒-1	4.00	1.50				0.10	0.10	2.00		0.02	0.02	2.00	3.00	0.67	
㉒-2	4.00	1.50	0.40	0.10	0.30				0.012		0.012	2.00	3.00	0.40	
㉒-3	2.50	1.50										1.25	1.88	0.00	
㉒-4	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉓-1	4.00	1.50	0.10	0.10	2.00				0.02		0.02	2.00	3.00	0.67	
㉓-2	4.00	1.50	1.00	0.25	0.45				0.1125		0.1125	2.00	3.00	3.75	
㉓-3	4.50	1.50	1.00	0.50	0.36				0.18		0.18	2.25	3.38	5.33	
㉔-1	4.00	1.50	0.60	0.50	0.10	0.50	0.90	0.15	0.03	0.0675	0.0975	2.00	3.00	3.25	
㉔-2	4.00	1.40	0.40	0.50	0.30	0.50	0.60	0.30	0.06	0.09	0.15	2.00	2.80	5.36	
㉔-3	3.80	1.45	0.45	0.50	0.10	0.50	1.00	0.20	0.0225	0.1	0.1225	1.90	2.76	4.45	
㉕-1	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉕-2	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉕-3	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉕-4	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉕-5	4.00	1.40										2.00	3.00	0.00	
㉕-6	3.50	1.40										1.75	2.45	0.00	
㉕-7	4.00	1.40										2.00	2.80	0.00	
㉕-8	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉕-9	4.00	1.40				0.30	0.30	0.20		0.018	0.018	2.00	2.80	0.64	
㉕-10	4.00	1.40				0.30	0.30	0.20		0.018	0.018	2.00	2.80	0.64	
㉕-11	2.00	1.40				0.10	0.10	1.00		0.01	0.01	1.00	1.40	0.71	
㉖	3.60	1.40										1.80	2.52	0.00	
㉗-1	4.00	1.50										2.00	3.00	0.00	
㉗-2	2.00	1.50										1.00	1.50	0.00	
㉘	3.50	1.40	0.40	0.30	0.20				0.024		0.024	1.75	2.45	0.98	
西端部	5.00	1.50	0.40	0.50	0.20				0.04		0.04	2.50	3.75	1.07	
合計	89 区画								3.946	4.320	8.266	169.1	218.85	1.80	
平均		3.80	1.30						0.096	0.123	0.145	-	2.46	5.19	

※斜体は掘削不能のためトレンチ内に残したものの

※トレンチ表面積・体積は0.5m幅として計算

## 6. 予想埋設物量

本調査にて調査総面積  $m^2$  にて確認された埋設物は  $m^3$  であった。このことより本調査地の総面積  $2006.55m^2$  から 1号棟及び2号棟の建面積を引いた対象面積に割り戻しを行うと調査地内の盛土内に含まれる予想埋設物量は以下のように計算される。

$$\begin{aligned} \text{確認埋設物量 } 8.265m^3 & \div \text{調査面積 } 169.1m^2 \\ & = \text{面積当たり埋設物混入量 } 0.048881/m^2 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{敷地面積 } 2006.55m^2 & - \text{1号棟建面積 } 285.12m^2 - \text{2号棟建面積 } 106.56m^2 \\ & = \text{対象面積 } 1614.87m^2 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{対象面積 } 1614.87m^2 & \times \text{面積当たり埋設物混入量 } 0.048881m^3/m^2 \\ & = \text{予想埋設物量 } 78.9362m^3 \end{aligned}$$

以上より予想される総埋設物量は  $78.9m^3$  と計算される。

なお、本予想は建物周辺の平地部のものであること、受水槽や自転車置き場、街灯や車止めや縁石などの地表にある付帯工作物、排水柵や送水管、電気設備などの既存埋設物については除外したものとすることに注意が必要である。

## 7. 埋設物撤去について

### 7.1 調査にて発生した埋設物の撤去について

本調査にて確認した埋設物については、配管等及び掘削不能の埋設物を除き、建設廃棄物として場外に持ち出し、処理業者に引き渡した。また、トレンチ上の駐車場等のアスファルト舗装についても同様に処分を実施した。巻末にマニフェストを挟む。

掘削調査後には原則として現地発生土を転圧して埋め戻しを行ったが、アスファルト撤去分など足りない部分については購入砕石などによる埋め戻しを行った。

### 7.2 調査地全体の埋設物と今後の撤去について

埋設物については、大きいもので  $5\text{m} \times 1\text{m} \times 0.5\text{m}$  程度であるが、コンクリート板等が主体であることよりリッパ等にて破壊可能と考えられる。

基本的にはバックホーにて掘削し、掘削土砂をバックホーを利用し、スケルトンバケットにて選別することにより除去可能と考えられる。

また、本調査にて撤去しなかったアスファルト舗装、縁石、車止めなどについては別途撤去が必要となる。

なお、撤去必要埋設物堆積は予想総埋設物量からすでに撤去した埋設物量を引いたものであるため、以下のように計算される。

$$\begin{aligned} \text{予想総埋設物量 } 78.9\text{m}^3 & - \text{撤去済み埋設物量 } 3.9\text{m}^3 \\ & = \text{撤去必要埋設物堆積 } 75.0\text{m}^3 \end{aligned}$$

埋設物撤去後の復旧については、転圧による現状土での埋め戻しを基本とし、最終的に埋め戻し土が足りない場合は砕石などの購入土にて埋め戻しを行うことを推奨する。

## 8. 土壌汚染対策について

本調査では地表 1.5m 深度までのトレンチ掘削を実施した。基本的には地山（旧地表面）以深は掘削しておらず、地山以深の土壌についての知見は得られなかった。調査地の大半で表面約 1.5m 程度までが人工改変土（盛土）にて覆われており、アスファルト片、コンクリート片、煉瓦片等の埋設物を含んでいることを確認した。掘削土砂は盛土層で、礫混じり粘土質砂を主体とし、主として淡褐色～暗灰色を呈し、異臭や特異な色彩を持つ土砂や多量の焼却灰などは確認されず、一般的な盛土であると考えられる。なお、一部にて確認された焼却灰は少量であり通常ゴミなどの焼却灰と考えられ、土壌汚染を特に引き起こす対象では無いと判断される。

また、現地の来歴としては農地を経て主として宿舎として利用されており、工場などの来歴は確認できなかった。このことより本調査地は工場などの化学物質等の汚染が生じていないと考えられ、近隣でも工場があったとは確認できないため土壌汚染調査の義務は無いと考えられる。

なお、土壌汚染の調査義務は以下の通りである。本調査地はこの 3 項目には該当していないため調査義務対象外となる。

- ① 有害物質使用特定施設の廃止時（法第 3 条）
- ② 3,000 平方メートル以上の土地の形質変更の届出の際に土壌汚染のおそれがあると知事が認めるとき（法第 4 条）
- ③ 土壌汚染による健康被害が生じるおそれがあると知事が認めるとき（法第 5 条）

以上より、盛土部は土壌汚染の可能性は低く【安定型】と考えられるが、盛土以深では自然由来の物質（ヒ素・フッ素・鉛等）については海岸線に近いことも有り、浚渫土を盛土として利用している場合は上記物質が検出される可能性は残される。

## 9. 総合所見

本調査の所見を以下にとりまとめる。

### 1) 埋設物の詳細 材質・構造・大きさ

図 4.2～4.33 に示すように埋設物の主体はコンクリートガラ・アスファルトガラであり、部分的にコンクリート板や井戸枠などが確認されている。コンクリートガラ等は最大でも 1m 程度以下の大きさを確認した。掘削不能の部分でも比較的薄めのコンクリート板である。埋設物には他に煉瓦片、玉石、U 字側溝などの旧表層設置物等も確認できた。

### 2) 埋設量 各調査地点の出土量及び予想される全体の埋設量

各地点の出土量は表 5.1 にまとめた。予想される全体の埋設量は 6 章に示すように 78.9m<sup>3</sup> と計算された。

### 3) 埋設物の分布状況

図 4.2～4.33 に分布状況を示した。基本的には地表より 0.5～1.5m までを主体とするが、盛土層の全体的に含まれている。なお、各種配管については原則的に存置してあるが、掘削時に破損したのも有り再利用には注意が必要となる。

### 4) 存置した場合の建物建築への支障 【有】

調査結果より埋設物が確認できなかった箇所はあまりなく、ほぼ全体に分布していることが確認された。このことより新規建築などを実施する場合、杭基礎などの設置や推進工法などでの配管設置時に要注意となる。なお、本調査は最深で GL-1.5m であることより、それ以深の地盤状況などについては不明であることに注意されたい。

また、直接基礎形式などでは基礎工事時に掘削が必要なため事前の埋設物撤去は必要不可欠でなく、この場合の支障は【無】となる。

### 5) 撤去した場合の本地及び隣接地への影響

基本的には撤去できない埋設物は確認できなかった。また、隣地とまたがる埋設物は確認できなかった。このため撤去のために隣接地及び本地での影響としては粉じん及び騒音以外は特に考えられない。

## 6) 埋設物の撤去方法

7章に示すように表層のアスファルトも含め、コンクリート板などはアタッチメントリッパーにて破碎、その後はバックホーによる掘削及び選別にて撤去可能と考える。

## 7) 推定埋設物に対する撤去費用の見積もり

予想埋設物量から本調査にてすでに撤去した埋設物量を引いた量が残りの埋設物量と考えられ、算出すると約 75m<sup>3</sup> が撤去必要な体積と推定される。なお、撤去作業得面積は本調査地全域となるため注意が必要である。

4tトラックは1台あたり4トン積載・ガラ 2.4t/m<sup>3</sup>から撤去必要なトラック台数を計算すると  $75 \text{ m}^3 \times 2.4 \text{ t/m}^3 \div 4 \text{ t} = 45$  台と推定される。

作業見積もりとしては作業日数2週間程度。撤去に必要な4tトラック45台。

(別途、アスファルト舗装撤去が必要で現地に残っているアスファルト面積 430 m<sup>2</sup>より  $430 \text{ m}^2 \times \text{厚さ } 0.1 \text{ m} \times 2.35 \text{ t/m}^3 \div 4 \text{ t} = 26$  台が必要)

参考見積もり額 約 483 万円 (税別)

## 8) 土壌汚染調査の要否

8章に示すとおり、土壌汚染調査の調査義務については該当していない土地であり、掘削調査時には土壌汚染と思われる事象を確認できなかったため調査の必要性は低く【安定型】と考えられる。

ただし、比較的古い盛土であること、海岸線に近いことなどより浚渫土を盛土利用していた場合はフッ素などについては検出される可能性は否定できない。

以上

見積 第 号

見 積 書

平成 年 月 日

厚生労働省 兵庫労働局 様

見積金額 金 4,827,800 円也

(上記額には消費税は含まれておりません)

ご照会の件、上記のとおり御見積いたしました。

業 務 名 : 明石市大久保町谷八木1191-51他 地下埋設物撤去  
業 務 場 所 : 明石市大久保町谷八木1191-51他  
業 務 期 間 : 平成 年 月 日～平成 年 月 日  
特 記 事 項 :

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)

奈良市芝辻町二丁目10番6号  
株式会社シードコシタルタント  
代表取締役 市田 富久夫





年 月 日

支出負担行為担当官  
兵庫労働局 総務部長 殿

株式会社エルエフ関西  
代表取締役 山本 王明



## アスベスト調査報告書

1. 調査対象物件 大久保宿舎 明石市大久保町谷八木字奥北野1191-50
2. 調査手法 設計図書等による資料及び現場目視調査により、次の内容について確認した。
  - ①石綿を含有する（不明を含む）建材の敷設場所・部位
  - ②石綿を含有する（不明を含む）建材の名称
  - ③石綿の含有状況
  - ④現状の飛散性・非飛散性
  - ⑤解体・改修工事時の対策の必要性
  - ⑥根拠資料また、分析調査の必要性も判定した。
3. 調査期間 平成28年10月28日～平成28年12月9日
4. 調査結果
  - ・石綿を含有する建材の使用が確認された。
  - ・詳細については調査結果表（表4-1～表4-35）に記載した。
5. 添付資料
  - 詳細表
  - 写真
  - 根拠資料

# 調査結果明細書

## 1. 調査対象物件

建物所在地 明石市大久保町谷八木字奥北野1191-50

### [建物概要]

施設名	1号棟	2号棟	外部
建築年	昭和41年5月	昭和44年6月	昭和41年5月
改修年	平成7年9月	平成7年9月及び平成13年	平成7年9月
階数	4階建	4階建	ポンプ室、プロパンボンベ室 自転車置き場
延べ床面積	1140.48m <sup>2</sup>	426.24m <sup>2</sup>	-

## 2. 調査箇所

建物外部 ----- 建物外部、自転車置場、ポンプ室、プロパンボンベ室、階段室、宿舍屋上

建物内部 ----- 天井・梁・壁・床・腰・巾木

工作物等 ----- 煙突、配管保温材、フランジパッキン、コーキング材、防水材

## 3. 今回の調査の範囲

### [調査内容]

今回、調査を行った建物等を図3-1～図3-5に示す。これら図に、今回の調査の区分（部屋番号等）を記載した。

書面調査では設計図書等から石綿含有の可能性がある建材を抽出した。引き続き行った目視調査では、書面調査で抽出した石綿含有の可能性がある建材について現地確認を行った。書面調査及び目視調査の実施記録は、全て「詳細表」（添付資料）にまとめている。なお、設計図書に記載のない石綿含有建材や、部分的に隠れたところにある石綿含有建材は今回の調査でも見落としている可能性があるため、改修・解体工事等を行う場合はその点に留意する必要がある。

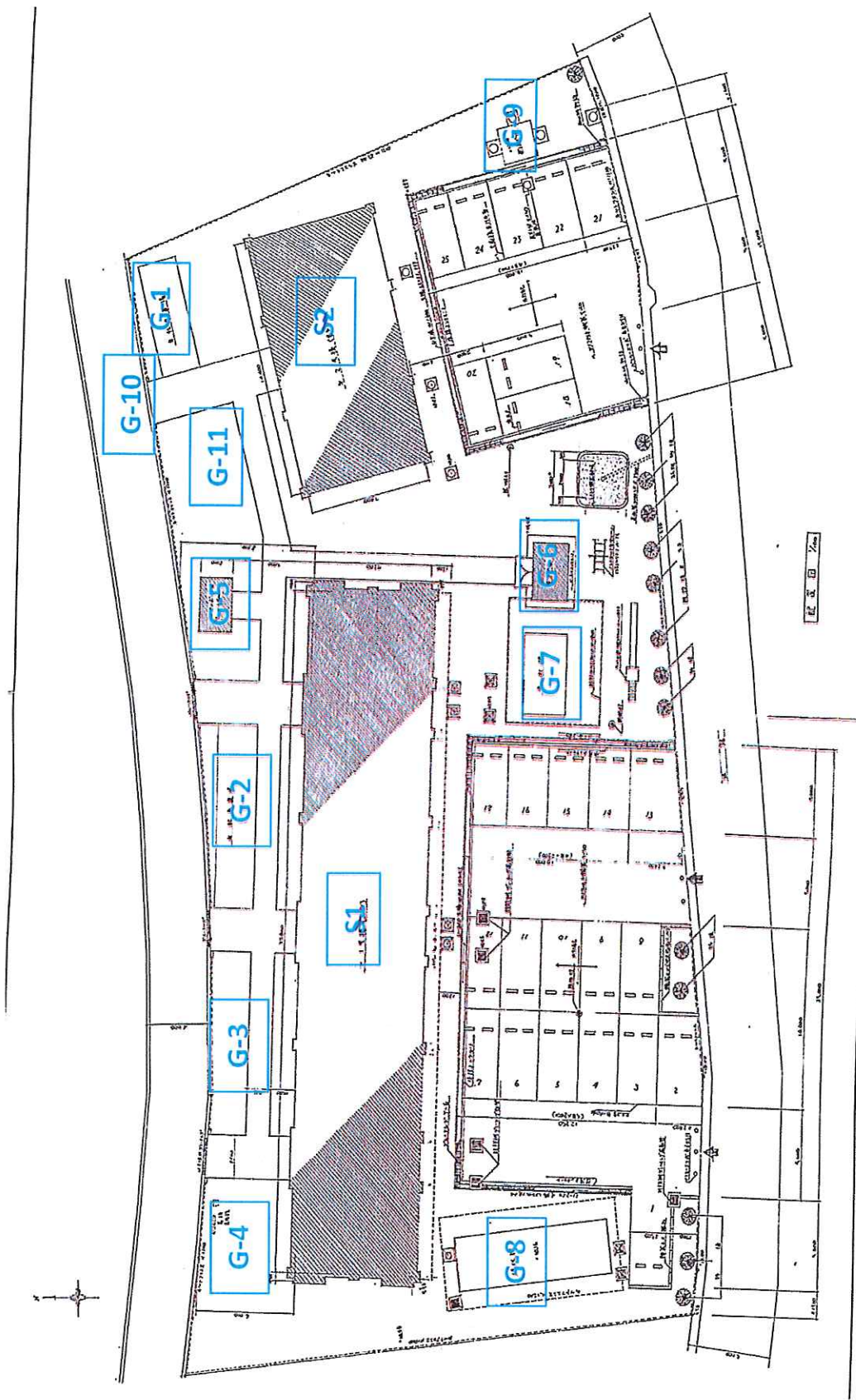
### [目視できなかつた建材]

下記二つの建材は、設計図書には存在するが、視認するためには高所又は大掛かりな破碎工事が必要のため、今回の調査では確認できなかつた。解体工事を行う場合はその点に留意する必要がある。

- ① 1号棟の煙突中央部に敷設されたパッキン（図3-7参照）
- ② 1号棟の煙突の下部の建材（設計図書で「○石綿」と読める）（図3-8参照）

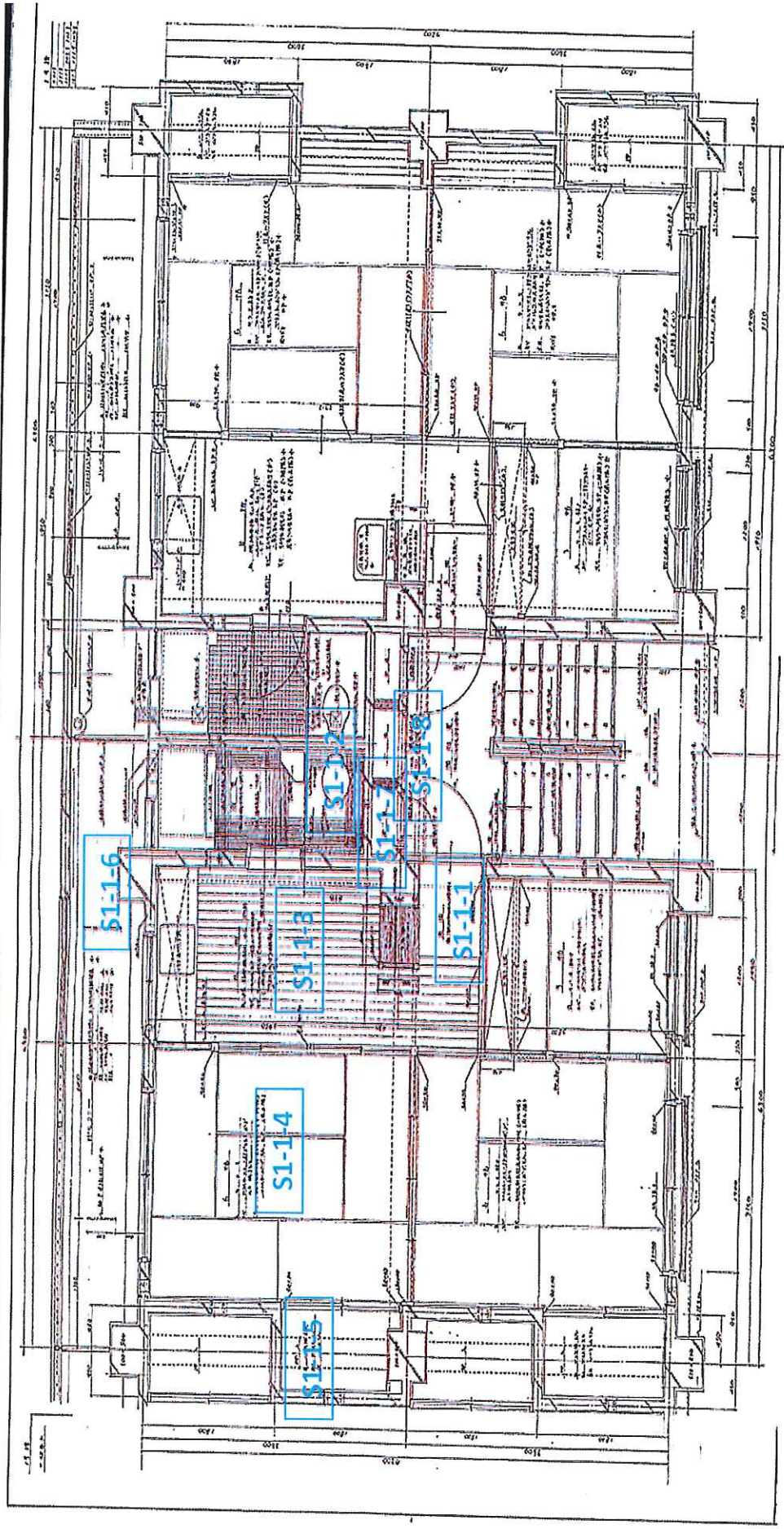
## 4. 調査結果

- (1) 調査対象物件から、石綿含有建材又は石綿の含有が不明な建材が確認された。石綿含有建材又は石綿含有が不明な建材を4-1～表4-35に記載した。
- (2) 本調査では建築・改修時期から石綿使用頻度が高いとフレキシブルボード、スレートボード（波板、大平板）及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。
- (3) 今回の調査では、石綿含有が不明の建材については、分析調査の必要性があると判定した。なお、石綿含有建材とみなして法令に遵守して対策工事を行えば分析する必要はない。



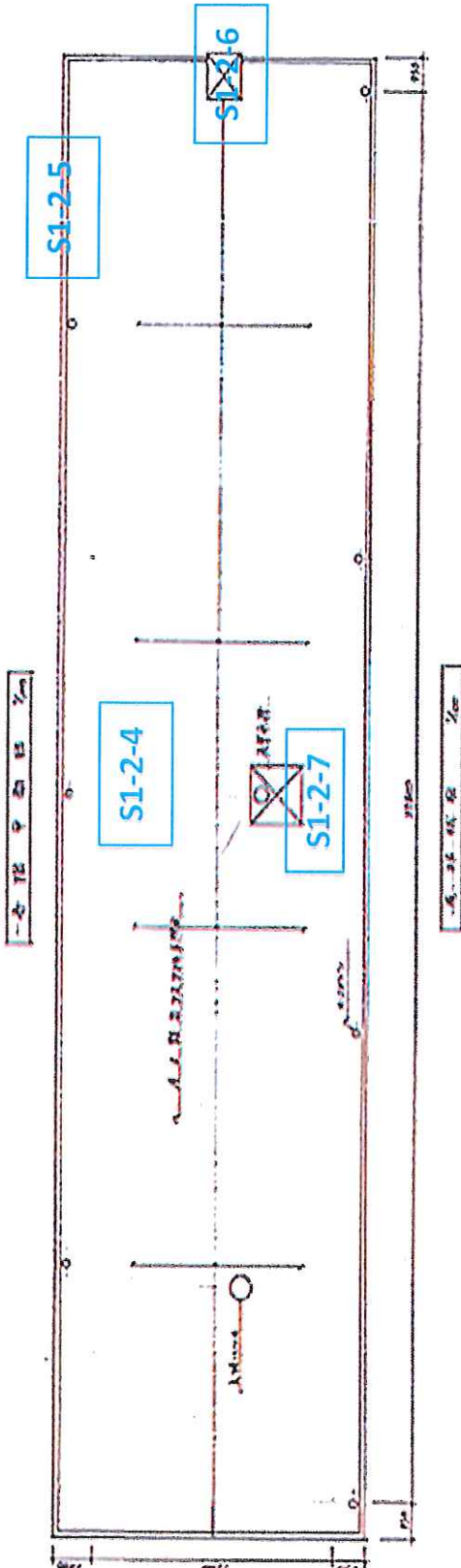
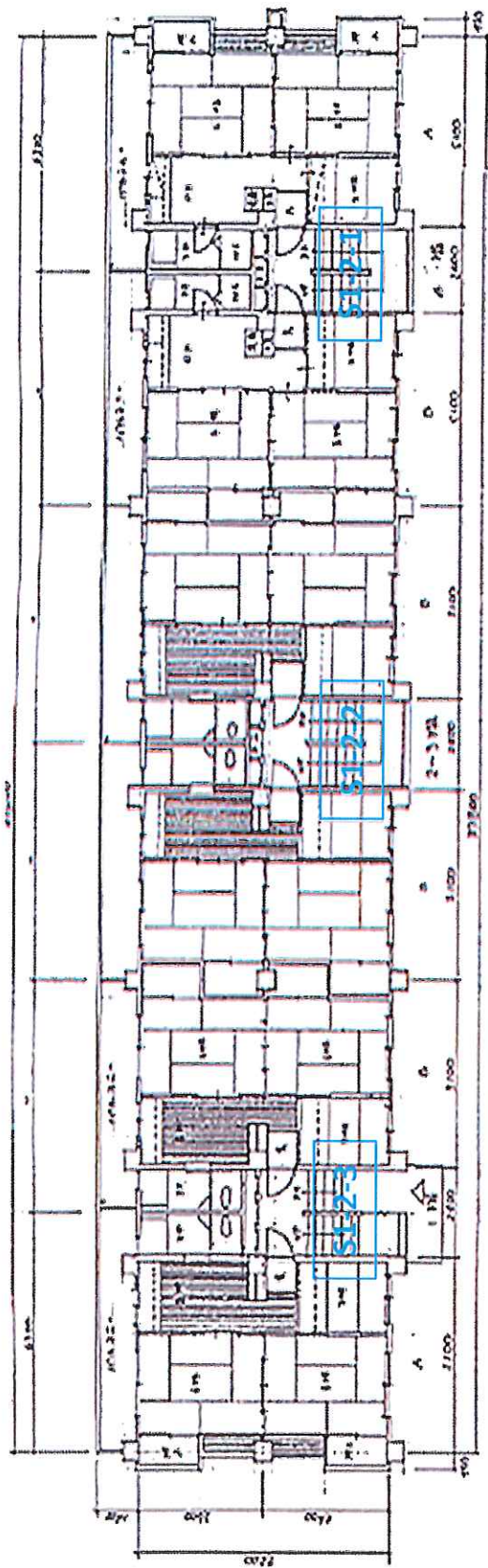
☐ : 部屋番号

図3-1 敷地全体図



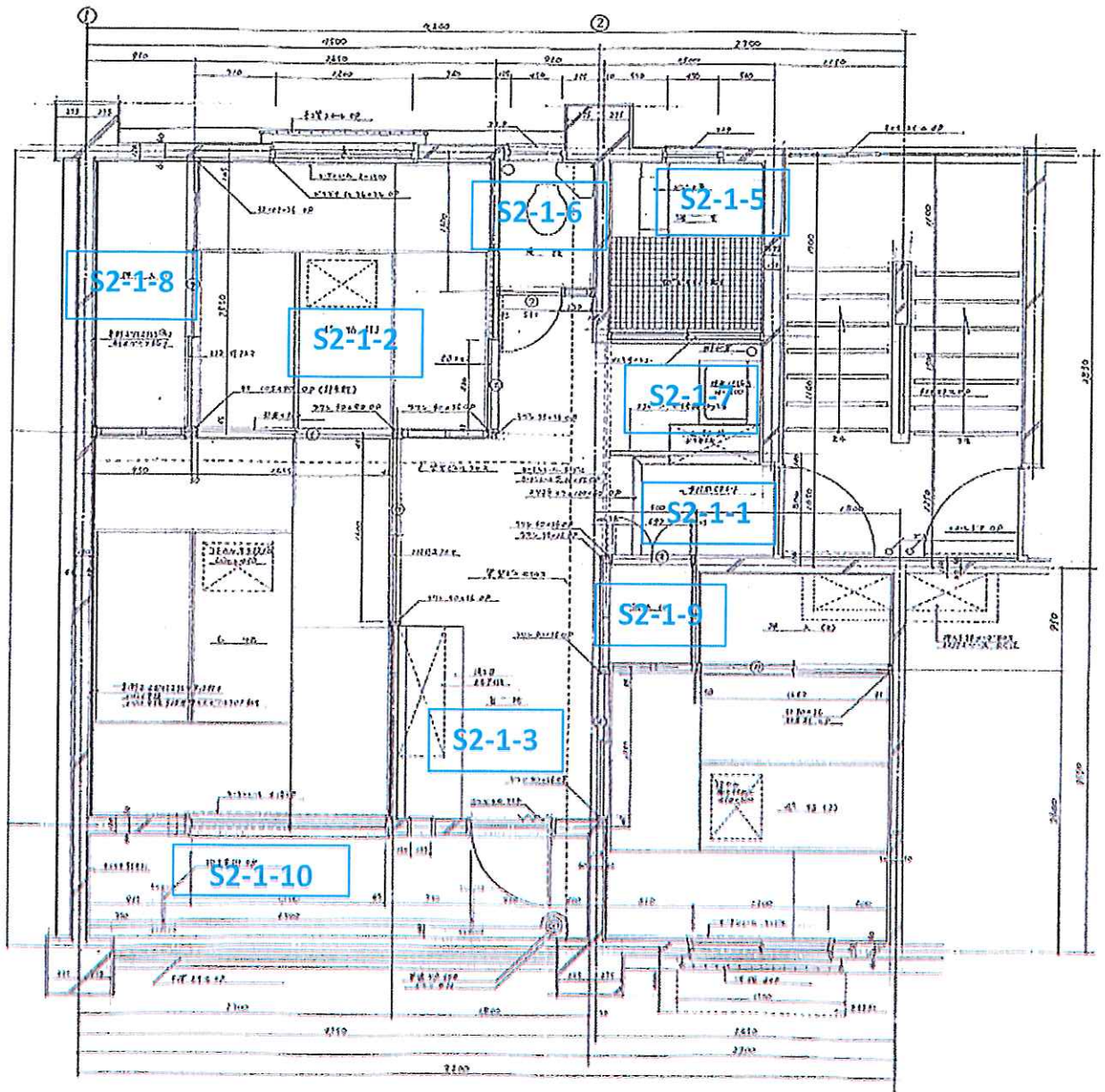
□ : 部屋番号 (101号~406号)

図3-2 1号棟居室内



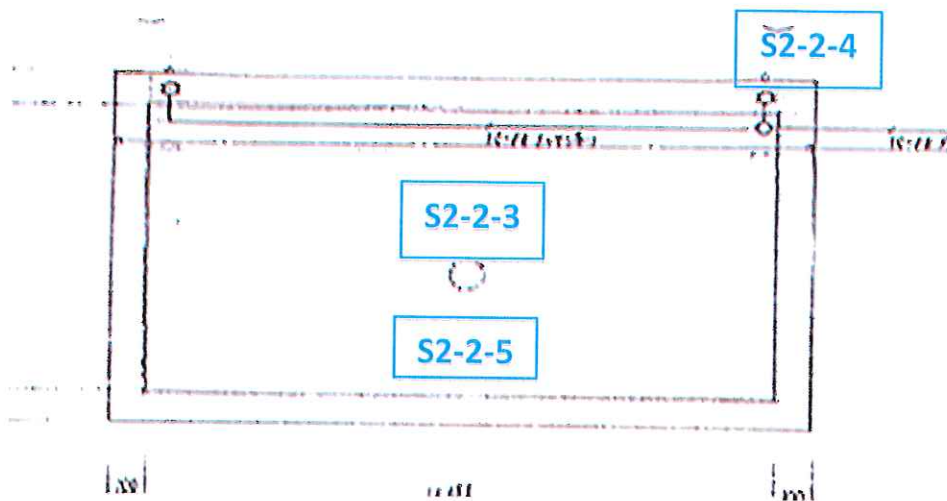
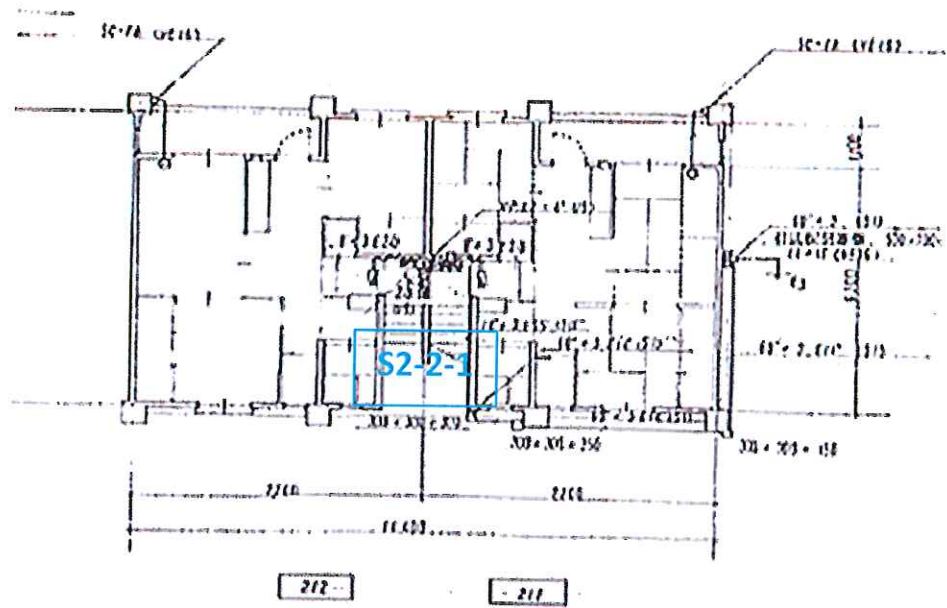
□ : 部屋番号

図3-3 1号棟外部・設備



: 部屋番号(211号~242号)

図3-4 2号棟居室内



: 部屋番号

図3-5 2号棟外部・設備

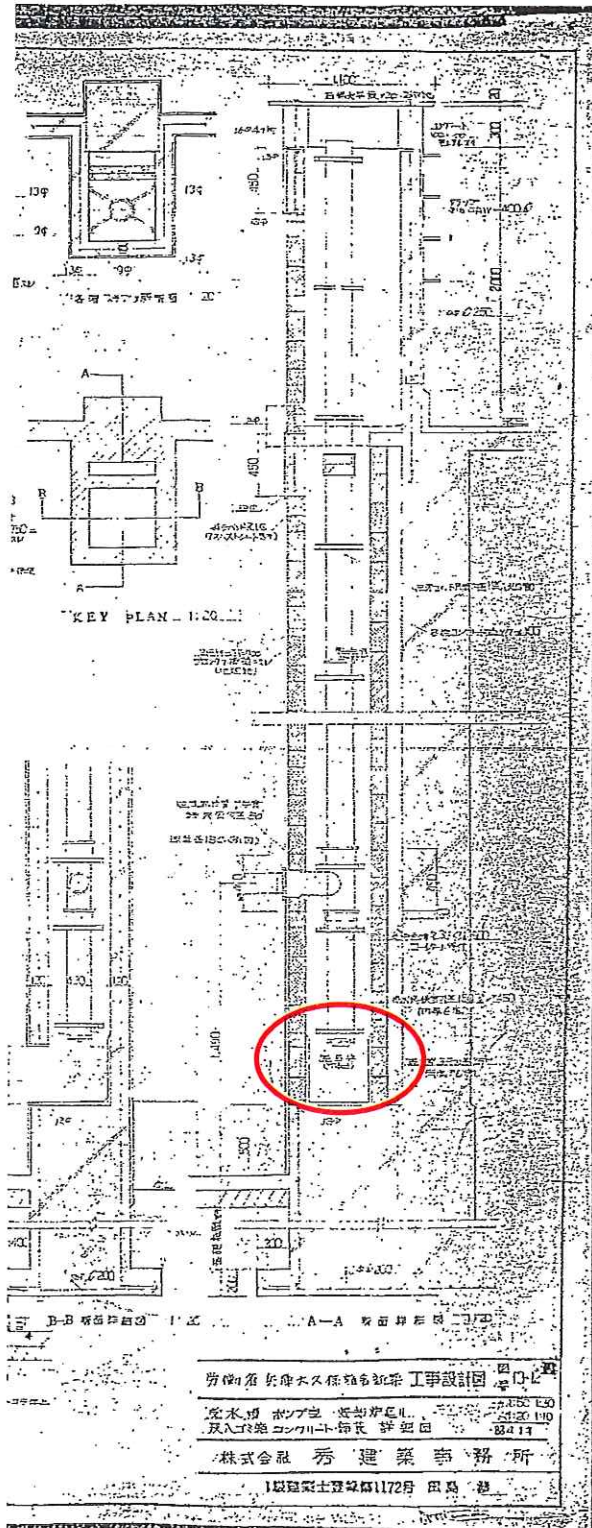


図3-7 煙突下部の○石綿



表4-1 1号棟101号室の調査結果

場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
		敷設場所・部 位	建材の名称				
玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		床	CFシート(11)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		巾木	ソフト巾木(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		床(便所)	CFシート(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		壁 木造	<u>フレキシブルボード</u>	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
居室	S1-1-4	床	CFシート(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		壁 木造	せっこうボード(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		物入	せっこうボード(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
ベランダ	S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
NB	S1-1-8	柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		配管	配管保温材	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-2 1号棟102号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		石綿の含有状況 <sup>注1</sup>	分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 102号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			巾木	ソフト巾木(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床(便所)	CFシート(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居室	S1-1-4	床	CFシート(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
壁 木造		物入	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
S1-1-6		天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
ベランダ NB	S1-1-8	間仕切り	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設図図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-3 1号棟103号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 103号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			巾木	ソフト巾木(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床(便所)	CFシート(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			床	CFシート(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
居室	S1-1-4	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁 木造	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		物入	せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
ベランダ	S1-1-6	壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB		SI-1-8	配管	配管保温材	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びびセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-4 1号棟104号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部 位	建材の名称					
1号棟 104号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	居室	S1-1-4	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
壁 木造			せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
物入			せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
天井			仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
ベランダ	S1-1-6	壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	S1-1-8	壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-5 1号棟105号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 105号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居室	S1-1-4	床	CFシート(4)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			物入	せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
天井			仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
壁			仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
ベランダ	S1-1-6	間仕切り	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	S1-1-8	柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-6 1号棟106号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 106号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居室	S1-1-4	床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
壁 木造		物入	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ		S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
NB	S1-1-8	間仕切り	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			配管	配管保温材	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びビメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-7 1号棟201号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		石綿の含有状況 <sup>注1</sup>	分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称						
1号棟 201号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
	浴室・便所	S1-1-2	<b>天井</b>	<b>フレキシブルボード</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			巾木	ソフト巾木(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床(便所)	CFシート(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004	
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
	居室	S1-1-4	<b>壁 木造</b>	<b>フレキシブルボード</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>
			床	CFシート(4)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
天井			仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
壁 木造			せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		
ベランダ	S1-1-6	物入	せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
		<b>間仕切り</b>	<b>フレキシブルボード</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
NB	配管	配管保温材	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判断した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判断した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-8 1号棟202号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		石綿の含有状況 <sup>注1</sup>	分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 202号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		床(便所)	巾木	ソフト巾木(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	居室	S1-1-4	壁 木造	<b>フレキシブルボード</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>
			床	CFシート(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
壁		天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		
ベランダ	S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
	手摺	壁	<b>間仕切り</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	配管	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
			配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-9 1号棟203号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部 位	建材の名称				
1号棟 203号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(11)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			巾木	ソフト巾木(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床(便所)	CFシート(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
居室	S1-1-4	壁 木造	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
		床	CFシート(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
	物入	S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	せっこうボード(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	ベランダ	S1-1-6	物入	せっこうボード(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
NB	S1-1-8	手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			配管保温材	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-10 1号棟204号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		石綿の含有状況 <sup>注1</sup>	分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称						
1号棟	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)		不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
204号室	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(5)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
1号棟	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁 木造	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
204号室	居室	S1-1-4	床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	せっこうボード(1)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			物入	せっこうボード(2)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
204号室	ベランダ	S1-1-6	壁	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	あり	非飛散性	K003	
			壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
204号室	NB	S1-1-8	配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1: 上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2: “含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1: 建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2: 設図図書等の根拠資料の種類を記載した。a: 石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b: メーカーの証明書・ホームページ、c: その他根拠資料(K001からK007)

表4-11 1号棟205号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部 位	建材の名称					
1号棟 205号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居室	S1-1-4	床	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
壁 木造		S1-1-4	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
物入		S1-1-4	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
ベランダ	S1-1-6	間仕切り	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
NB	S1-1-8	配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判断した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判断した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-12 1号棟206号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	性状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
206号室	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
1号棟 206号室	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁 <u>木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	居室	S1-1-4	床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 木造	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			物入	せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁 <u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
ベランダ	S1-1-6	柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
NB	S1-1-8	配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-13 1号棟301号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	調査の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
301号室	浴室・便所	S1-1-2	天井	フレキシブルボード	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			壁	木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			巾木		ソフト巾木(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床(便所)		CFシート(4)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
1号棟	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004	
			天井		仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
301号室	居室	S1-1-4	壁	木造	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床		フレキシブルボード	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井		CFシート(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			壁	木造	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	ベランダ	S1-1-6	物入		せっこうボード(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井		せっこうボード(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁		仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			間仕切り		仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
NB	S1-1-8	手摺		フレキシブルボード	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		柱		仕上塗材・下地調整塗材(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		配管		仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		配管保温材		配管保温材	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。  
備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判断した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判断した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-14 1号棟302号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
玄関		S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(12)	不明	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
浴室・便所		S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床 (便所)	CFシート(5)	不明	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
台所		S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
			床	CFシート(6)	不明	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
居室		S1-1-4	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁 木造	せっこうボード(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			物入	せっこうボード(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
ベランダ		S1-1-6	壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
			手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
NB		S1-1-8	配管	配管保温材	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-15 1号棟303号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
		図番	敷設場所・部 位	建材の名称				
1号棟 303号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(11)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	<u>天井</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	台所	S1-1-3	床(便所)	CFシート(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	居室	S1-1-4	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			床	CFシート(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			壁 木造	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	ベランダ NB	S1-1-6	物入	せっこうボード(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
	配管	配管保温材	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。  
備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判断した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判断した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-16 1号棟304号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 304号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	居室	S1-1-4	床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
物入		S1-1-4	壁 木造	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			物入	せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
ベランダ		S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
NB	S1-1-8	<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			配管	配管保温材	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-17 1号棟305号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部位	建材の名称				
1号棟 305号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(11)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床 (便所)	CFシート(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>
	居室	S1-1-4	床	CFシート(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
壁 木造			せっこうボード(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
物入			せっこうボード(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
NB	S1-1-8	配管	配管保温材	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-18 1号棟306号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部 位	建材の名称					
1号棟 306号室	玄関	S1-1-1	天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床(便所)	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	台所	S1-1-3	<u>点検口</u>	<u>スレート板</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	居室	S1-1-4	<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
天井		仕上塗材・下地調整塗材(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
壁 木造		せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		
物入		せっこうボード(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		
壁		仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
ベランダ	S1-1-6	<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
NB	S1-1-8	配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-19 1号棟401号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 401号室	玄関	S1-1-1	天井	せっこうボード(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床	CFシート(11)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			巾木	ソフト巾木(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床 (便所)	CFシート(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
	台所	S1-1-3	浴室	コーキング材(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004	
			天井	せっこうボード(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
	居室	S1-1-4	壁 木造	<u>フレキシブルボード</u>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>
			床	CFシート(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
天井			せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
壁 木造			せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	S1-1-8	柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-20 1号棟402号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟 402号室	玄関	S1-1-1	天井	せっこうボード(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床	CFシート(11)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			床 (便所)	CFシート(6)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
			浴室	コーキング材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004	
	台所	S1-1-3	天井	せっこうボード(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
	ベランダ	居室	S1-1-4	床	CFシート(6)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
				天井	せっこうボード(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
天井				せっこうボード(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
壁 木造				せっこうボード(1)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ		S1-1-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
			手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	S1-1-8	柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003		
		壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		
	NB		配管保温材	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a		

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)



表4-22 1号棟404号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
		図番	敷設場所・部位	建材の名称					石綿の含有状況 <sup>注1</sup>
1号棟 404号室	玄関	S1-1-1	天井	せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	台所	S1-1-3	床 (便所)	CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
			天井	せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			<u>壁 木造</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	居室	S1-1-4	床	CFシート(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
壁 木造			せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
天井			仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
ベランダ	S1-1-6	壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		<u>間仕切り</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	S1-1-8	壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		配管	配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-23 1号棟405号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>#2</sup>
		図番	敷設場所・部位	建材の名称				
1号棟 405号室	玄関	S1-1-1	天井	せっこうボード(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(11)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室・便所	S1-1-2	天井	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	台所	S1-1-3	床(便所)	CFシート(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			浴室	コーキング材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
			天井	せっこうボード(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			壁 木造	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	非飛散性	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	居室	S1-1-4	床	CFシート(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			天井	せっこうボード(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
ベランダ	S1-1-6	壁 木造	せっこうボード(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		間仕切り	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	非飛散性	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
		手摺	仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
NB	S1-1-8	配管	壁一部	けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			配管保温材	配管保温材	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用履歴が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他の根拠資料(K001からK007)

表4-24 1号棟406号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
		敷設場所・部位	建材の名称	石綿の含有状況 <sup>注1</sup>					
1号棟 406号室	玄関	天井	せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		床	CFシート(11)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
	浴室・便所	壁	木造	けい酸カルシウム板第1種(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		床(便所)		CFシート(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	台所	浴室		コーキング材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
		天井		せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		壁	木造	フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居室	床		CFシート(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
		天井		せっこうボード(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		壁	木造	せっこうボード(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		天井		仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		壁		仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
間仕切り			フレキシブルボード	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	手摺		仕上塗材・下地調整塗材(3)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
	柱		仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
	壁一部		けい酸カルシウム板第1種(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
NB	配管		配管保温材	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-25 1号棟外部・設備の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		石綿の含有状況 <sup>注1</sup>	分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部位	建材の名称					
1号棟外部・設備	階段室 東	S1-2-1	天井 最上階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			天井 一般階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			階段裏壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			手摺	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			天井 最上階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			天井 一般階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			階段裏壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	階段室 中央	S1-2-2	天井 最上階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			天井 一般階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			階段裏壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	階段室 西	S1-2-3	天井 最上階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			天井 一般階	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			階段裏壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	屋上	S1-2-4	手摺	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
床			アスファルト防水(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004	
外壁	S1-2-5	壁・庇・柱	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		天蓋	石綿大平板	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
煙突	S1-2-6	上部煙管	セメント管(石綿フイット)	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		天井支え	セメント管	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
設備	S1-2-7	壁	仕上塗材・下地調整塗材(2)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		種	石綿セメント管	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びビニル床タイル及びびん床タイルは、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-26 2号棟211号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部 位	建材の名称				
2号棟 211号室	玄関	S2-1-1	床	CFシート(7)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
		S2-1-2	間仕切り	スレートボード	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居間	S2-1-3	床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	台所	S2-1-3	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井	フレキシブルボード	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室	S2-1-5	壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(9)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	便所	S2-1-6	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			間仕切り	せっこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
洗面所	S2-1-7	床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
		床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	S2-1-10	天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、ユキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他の根拠資料(K001からK007)

表4-27 2号棟212号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>	
		図番	敷設場所・部位	建材の名称					石綿の含有状況 <sup>注1</sup>
2号棟	玄関	S2-1-1	床	CFシート(7)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007	
		S2-1-2	間仕切り	<u>スレートボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
212号室	台所	S2-1-3	床	CFシート(8)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007	
			床	ビニル床タイル(1)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
			間仕切り	せつこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
2号棟 212号室	浴室	S2-1-5	<u>天井</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>	
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003	
	便所	S2-1-6	床	CFシート(9)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007	
			間仕切り	せつこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
	洗面所	S2-1-7	間仕切り	せつこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
			床	CFシート(8)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007	
	ベランダ	S2-1-10	床	ビニル床タイル(1)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
			天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003	
				壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、ニューキング材、せつこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他の根拠資料(K001からK007)

表4-28 2号棟221号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部 位	建材の名称				
2号棟 221号室	玄関	S2-1-1	床	CFシート(7)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
		S2-1-2	間仕切り	<u>スレートボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	居間	S2-1-3	床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	台所	S2-1-5	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			<u>天井</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>非飛散性</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	浴室	S2-1-6	壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(9)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	便所	S2-1-7	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			間仕切り	せっこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
洗面所	S2-1-10	床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
		床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	S2-1-10	天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。  
備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-29 2号棟222号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
		図番	敷設場所・部 位	建材の名称				
2号棟	玄関	S2-1-1	床	CFシート(7)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007
	居間	S2-1-2	間仕切り	スレートボード	含有	あり	含有の場合、対策が必要	a
222号室	台所	S2-1-3	床	CFシート(8)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007
	浴室	S2-1-5	間仕切り	ビニル床タイル(1) せっこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
222号室	洗面所	S2-1-6	天井	フレキシブルボード	含有	あり	含有の場合、対策が必要	a
	ベランダ	S2-1-10	壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003
222号室	便所	S2-1-6	床	CFシート(9)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007
	洗面所	S2-1-7	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
洗面所		S2-1-7	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
	洗面所	S2-1-7	床	CFシート(8)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007
洗面所		S2-1-7	床	ビニル床タイル(1)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
	洗面所	S2-1-7	天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003
洗面所		S2-1-7	壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他の根拠資料(K001からK007)

表4-30 2号棟231号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査 の必要性	現状の飛散 性・非飛散 性	解体・改修工事時 の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
		図番	敷設場所・部 位	建材の名称				
2号棟 231号室	玄関	S2-1-1	床	CFシート(7)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
		S2-1-2	間仕切り	スレートボード	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	台所	S2-1-3	床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			間仕切り	せつこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		S2-1-5	天井	フレキシブルボード	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室		壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
		S2-1-6	床	CFシート(9)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	便所		間仕切り	せつこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
		S2-1-7	間仕切り	せつこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	洗面所		床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
S2-1-10		床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ		天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、ニューキング材、せつこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-31 2号棟232号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部位	建材の名称				
2号棟 232号室	玄関	S2-1-1	床	CFシート(7)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
		S2-1-2	間仕切り	スレートボード	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	居間	S2-1-3	床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	台所	S2-1-3	間仕切り	せつこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			天井	フレキシブルボード	含有	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室	S2-1-5	壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			床	CFシート(9)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	便所	S2-1-6	間仕切り	せつこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			間仕切り	せつこうボード(4)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
洗面所	S2-1-7	床	CFシート(8)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
		床	ビニル床タイル(1)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	S2-1-10	天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
		壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判断した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、ニューキング材、せつこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判断した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他の根拠資料(K001からK007)

表4-32 2号棟241号室の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
		図番	敷設場所・部位	建材の名称				
2号棟 241号室	玄関	S2-1-1	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(7)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007
	居間	S2-1-2	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
			<u>間仕切り</u>	<u>スレートボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
	台所	S2-1-3	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(8)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007
			床	ビニル床タイル(1)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
			間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a
	浴室	S2-1-5	<u>天井</u>	<u>フレキシブルボード</u>	<u>含有</u>	<u>あり</u>	<u>含有の場合、対策が必要</u>	<u>a</u>
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003
便所	S2-1-6	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
		床	CFシート(9)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007	
洗面所	S2-1-7	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
		天井	せっこうボード(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
		間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	a	
ベランダ	S2-1-10	床	CFシート(10)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K007	
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	含有の場合、対策が必要	K003

備考1: 上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2: “含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1: 建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2: 設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a: 石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b: メーカーの証明書・ホームページ、c: その他根拠資料(K001からK007)

表4-33 2号棟242号室の調査結果

区分	場所	図番	石綿含有又は石綿含有不明の建材		石綿の含有状況 <sup>注1</sup>	分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
			敷設場所・部位	建材の名称					
2号棟 242号室	玄関	S2-1-1	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(7)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
	居間	S2-1-2	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			<b>間仕切り</b>	<b>スレートボード</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>
	台所	S2-1-3	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			床	CFシート(8)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007
			床	ビニル床タイル(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
			間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	浴室	S2-1-5	<b>天井</b>	<b>フレキシブルボード</b>	<b>含有</b>	<b>あり</b>	<b>非飛散性</b>	<b>含有の場合、対策が必要</b>	<b>a</b>
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(4)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
便所	S2-1-6	天井	せっこうボード(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		床	CFシート(9)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
		間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		天井	せっこうボード(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
洗面所	S2-1-7	間仕切り	せっこうボード(4)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		床	CFシート(8)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K007	
ベランダ	S2-1-10	床	ビニル床タイル(1)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a	
		天井	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003	
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト中木、エーキング材、せっこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームペーじ、c:その他の根拠資料(K001からK007)

表4-34 2号棟外部・設備の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材			分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>※2</sup>
		図番	敷設場所・部位	建材の名称				
2号棟外部・設備	階段室	S2-2-1	天井 最上階	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			天井 一般階	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			階段裏壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
	屋上	S2-2-3	床	アスファルト防水(2)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K004
	外壁	S2-2-5	壁・梁・柱	仕上塗材・下地調整塗材(5)	不明	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003

備考1:上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。  
 備考2:“含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1:建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せつこうボード、配管保温材、ゼニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2:設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a:石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b:メーカーの証明書・ホームページ、c:その他根拠資料(K001からK007)

表4-35 外部の調査結果

区分	場所	石綿含有又は石綿含有不明の建材				分析調査の必要性	現状の飛散性・非飛散性	解体・改修工事時の対策の必要性	根拠資料 <sup>注2</sup>
		図番	敷設場所・部位	建材の名称	石綿の含有状況 <sup>注1</sup>				
外部	プロパンボンベ室	G-5	天井	スレートボード 波板	含有	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	a
	ポンプ室	G-6	天井	仕上塗材・下地調整塗材(7)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			壁	仕上塗材・下地調整塗材(7)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003
			外壁 軒下	仕上塗材・下地調整塗材(6)	不明	あり	非飛散性	含有の場合、対策が必要	K003

備考1: 上記表は石綿含有について、“含有”又は“不明”と判断した建材のみを記載し、他方、“無含有”と判断した建材は記載していない。なお、無含有の建材を含め調査結果の詳細は添付資料に示す。

備考2: “含有”と判断した建材は赤字・太線・斜字・下線で記載している。

注1: 建築・改修時期から石綿使用頻度が高いと考えられるフレキシブルボード、スレートボード(波板、大平板)及びセメント管は“含有”と判定した。一方、仕上塗材・下地調整塗材、CFシート、けい酸カルシウム板第1種、ソフト巾木、コーキング材、せつこうボード、配管保温材、ビニル床タイル及びアスファルト防水は、建築・改修時期から含有、無含有の両方が存在することから“不明”と判定した。

注2: 設計図書等の根拠資料の種類を記載した。a: 石綿含有建材データベース(国土交通省・経済産業省)、b: メーカーの証明書・ホームページ、c: その他根拠資料(K001からK007)

## 5. 分析調査計画について

今回の書面調査及び目視調査により、下記の①～⑬の建材については、石綿の含有について不明であると判定した。これら建材は、改修・解体工事を行う前に分析調査を行い、石綿の有無について確定する必要がある。表5-1～4-22に、分析調査計画として、サンプル収集を要する場所(69箇所)及び検体数(23検体)等一覧表をまとめる。なお、石綿含有建材とみなして法令に遵守して対策工事を行えば分析する必要はない。また、CFシートは絵柄は違うが施工・改修時期が同じものは同じ建材と考えてサンプル計画を立案した。

### [分析調査が必要な建材]

- ① 仕上塗材・下地調整塗材 (1) [表5-1に示す]
- ② 仕上塗材・下地調整塗材 (2) [表5-2に示す]
- ③ 仕上塗材・下地調整塗材 (3) [表5-3に示す]
- ④ 仕上塗材・下地調整塗材 (4) [表5-4に示す]
- ⑤ 仕上塗材・下地調整塗材 (5) [表5-5に示す]
- ⑥ 仕上塗材・下地調整塗材 (6) [表5-6に示す]
- ⑦ 仕上塗材・下地調整塗材 (7) [表5-7に示す]
- ⑧ CFシート(1)(2)(3)(4)(5)(6)(11)(12) [表5-8に示す]
- ⑨ CFシート(7)(8)(9)(10) [表5-9に示す]
- ⑩ けい酸カルシウム板第1種 (1) [表5-10に示す]
- ⑪ けい酸カルシウム板第1種 (2) [表5-11に示す]
- ⑫ ソフト巾木 (1) [表5-12に示す]
- ⑬ コーキング材 (2) [表5-13に示す]
- ⑭ コーキング材 (3) [表5-14に示す]
- ⑮ せっこうボード (1) [表5-15に示す]
- ⑯ せっこうボード (2) [表5-16に示す]
- ⑰ せっこうボード (3) [表5-17に示す]
- ⑱ せっこうボード (4) [表4-18に示す]
- ⑲ せっこうボード (5) [表4-19に示す]
- ⑳ 配管保温材 [表4-20に示す]
- ㉑ ビニル床タイル(1) [表4-21に示す]
- ㉒ アスファルト防水(1) [表4-22に示す]
- ㉓ アスファルト防水(2) [表4-23に示す]

## アスベスト検査結果報告書

兵庫労働局総務部長

様

貴社より委託を受けた石綿分析の結果は、下記に記載したとおりであることを証明します。ただし、本分析の結果は入手した試料の範囲に限定させていただきます。なお、弊社での当報告書の保管は発行から3年です。お客さまの方で大切に保管願います。

関工機 記

## 1. 分析を実施した石綿分析機関

名称	(株) エルエフ関西	代表取締役	山本 王明
所在地	〒566-0012 大阪府摂津市庄屋一丁目8番11号		
	TEL : 06-6170-9875 FAX : 06-6170-9874		
登録機関	作業環境測定機関登録番号(大阪27-99) 環境計量証明事業所番号(大阪第10394号)		
JIS A1481-1・5の分析実施者	吉垣 卓哉	日本作業環境測定協会 評価区分5: JIS A 1481-1及び-5(合格認定 2413A0074号)	
JIS A1481-2・3の分析実施者	田中 宣匡	日本作業環境測定協会 評価区分3: JIS A 1481-2及び-3(合格認定 2411A0075号)	
-	-	-	-

## 2. 試料採取

試料採取者	(株)エルエフ関西 大東達哉	試料採取日	2024年11月1日
-------	----------------	-------	------------

## 3. 分析を実施した年月日

分析実施日	2024年11月1日	～	2024年11月25日
-------	------------	---	-------------

## 4. 物件名称

物件名称	大久保宿舍解体工事設計業務
------	---------------

## 5. 分析結果

試料No.	試料(建材)名称 採取部位	定性分析結果			定量分析結果			定性分析方法 <sup>(注3)</sup>	検査記録 No.
		石綿の有無	石綿の種類 <sup>(注1)</sup>	推定アスベスト含有率 <sup>(注2)</sup>	定量分析の対象	石綿の種類 <sup>(注1)</sup>	石綿含有率 <sup>(注2)</sup>	定量分析方法 <sup>(注3)</sup>	
a	①仕上塗材・下地調整塗材(1) 1号棟 内部 天井	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 a
b	②仕上塗材・下地調整塗材(2) 1号棟 外壁	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 b
c	③仕上塗材・下地調整塗材(3) 1号棟 ベランダ 手摺	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 c
d	④仕上塗材・下地調整塗材(4) 2号棟 内部 浴室壁	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 d
e	⑤仕上塗材・下地調整塗材(5) 2号棟 外壁・軒下	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 e
f	⑥仕上塗材・下地調整塗材(6) ポンプ室 外壁	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 f
g	⑦仕上塗材・下地調整塗材(7) ポンプ室 内壁 壁・天井	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 g
h	⑧CFシート(1)(2)(3)(4)(5)(6)(11)(12) 1号棟 内部 床	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 h
i	⑨CFシート(7)(8)(9)(10) 2号棟 内部 床	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 i
j	⑩けい酸カルシウム板第1種(1) 1号棟 内部 壁・天井	有	Chr	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 j
k	⑪けい酸カルシウム板第1種(2) 1号棟 ベランダ 壁一部	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 k
l	⑫ソフト巾木(1) 1号棟 内部 巾木	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 l
m	⑬コーキング材(2) 1号棟 内部 浴室	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2 -	K44443 m

次頁に続く

試料 No.	試料(建材)名称 採取部位	定性分析結果			定量分析結果			定性分析方法 <sup>注3)</sup>	検査記録 No.
		石綿の 有無	石綿の種 類 <sup>注1)</sup>	推定アスベスト 含有率(% <sup>注2)</sup>	定量分析 の対象	石綿の種 類 <sup>注1)</sup>	石綿含有 率(%)	定量分析方法 <sup>注3)</sup>	
n	⑭コーキング材(3) 1号棟 内部 浴室	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 n
o	⑮せっこうボード(1) 1号棟 内部 壁	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 o
p	⑯せっこうボード(2) 1号棟 内部 物入	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 p
q	⑰せっこうボード(3) 1号棟 内部 天井	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 q
r	⑱せっこうボード(4) 2号棟 内部 間仕切り	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 r
s	⑲せっこうボード(5) 2号棟 内部 天井	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 s
t	⑳配管保温材 1号棟 配管保温材	無	-	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 t
u	㉑ビニル床タイル(1) 2号棟 内部 床	有	Chr	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 u
v	㉒アスファルト防水(1) 1号棟 屋上	有	Tre/Act	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 v
w	㉓アスファルト防水(2) 2号棟 屋上	有	Tre/Act	-	-	-	-	JISA1481-2	K44443 w
x	以下余白								
y									
z									
注1)	石綿の種類は次の記号で記載; Chr:クリソタイル、Amo:アモサイト、Cro:クロシドライト、Tre/Act:トレモライト/アクチノライト、Ant:アンソフィライト								
注2)	推定アスベスト含有率はJISA1481-1法において試料の顕微鏡による概略的観察から導いた概数である。基準値の適合状況等の重大な決定を行う場合は定量的方法による試料分析を行うのが妥当である。								
注3)	建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第1部:市販バルク材からの試料採取及び定性的判定方法(JISA1481-1:2016),第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016),第3部:アスベスト含有率のX線回折定量分析方法(JIS A 1481-3:2022),第4部:質量法及び顕微鏡法によるアスベストの定量分析方法(JISA1481-4:2016),第5部:X線回折法によるアスベストの定量分析方法(第1部の定性的判定方法を用いる場合の方法;JISA1481-5:2021)								
※1	-								
※2	-								
【特記】									

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 a

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

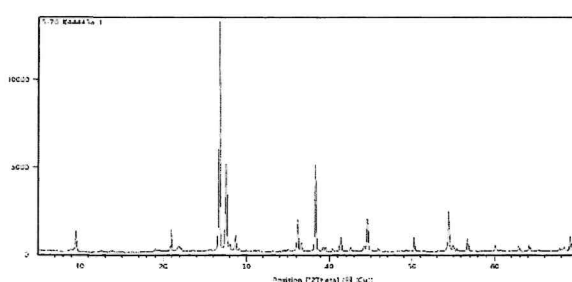
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械(株)	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
			PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
			1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

	<p>注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト</p>
---	--

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 b

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

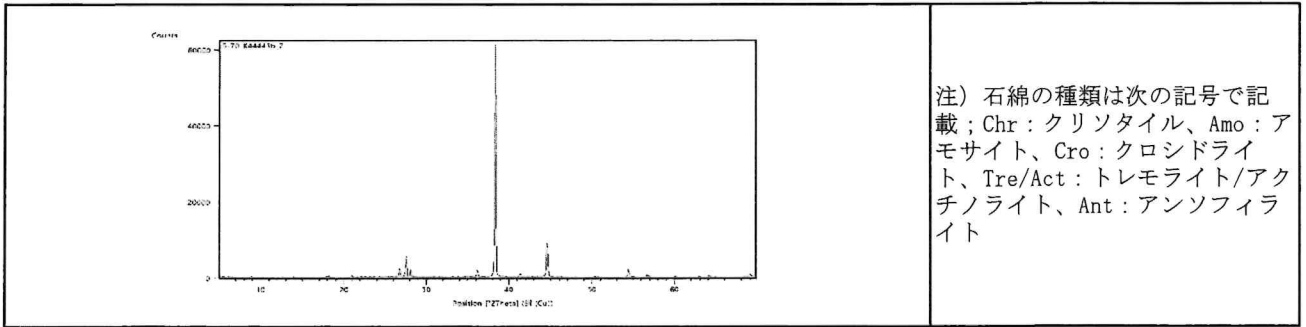
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分 PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol 1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 c

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC 加熱無し又は450℃、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical 管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille 1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 d

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

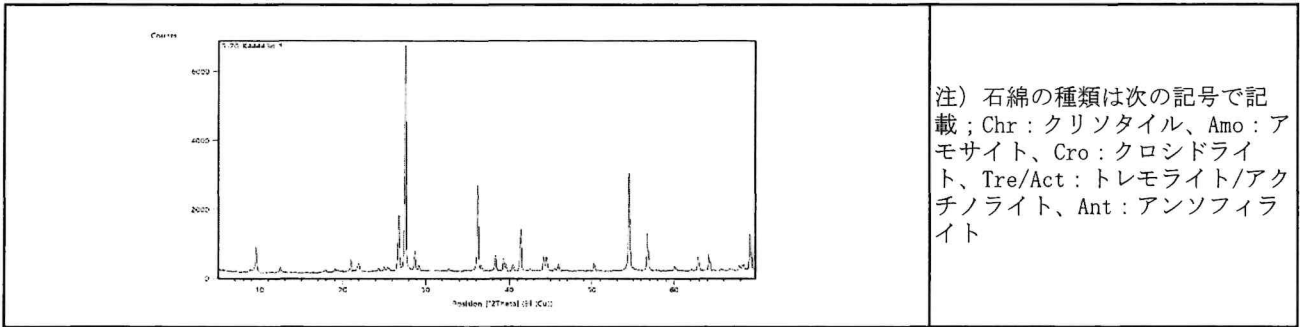
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 e

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

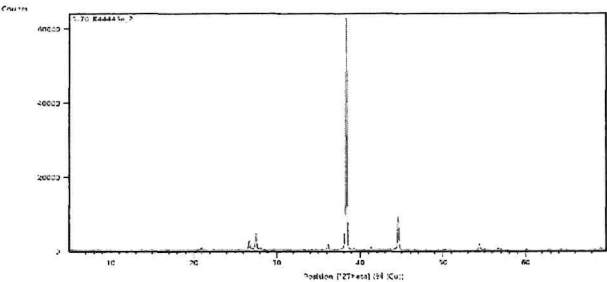
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズジョッカー (PM2000)	安井器械(株)	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	加熱無し又は450℃、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille
			1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

	<p>注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト</p>
---	--

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 f

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

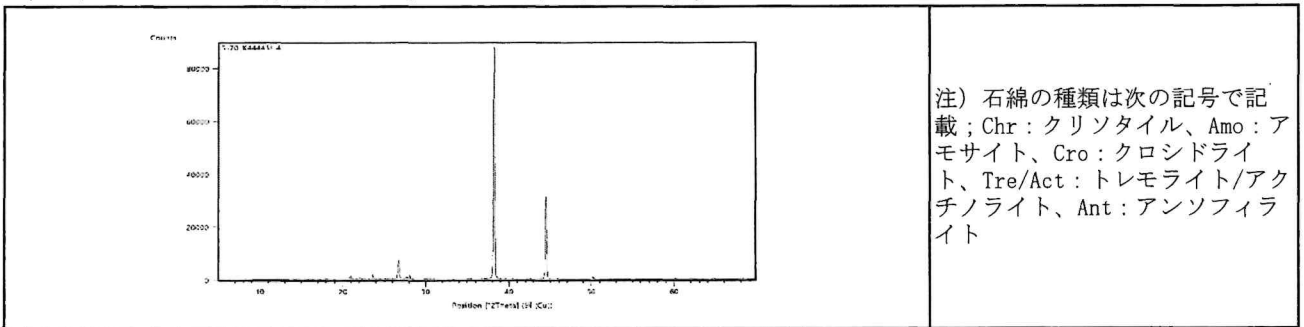
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械(株)	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
			PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
			1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったので撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 g

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
			PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
			1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 h

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC 加熱無し又は450℃、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical 管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille 1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~ 70° のX線回折プロファイルの一部を示す。

注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 i

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

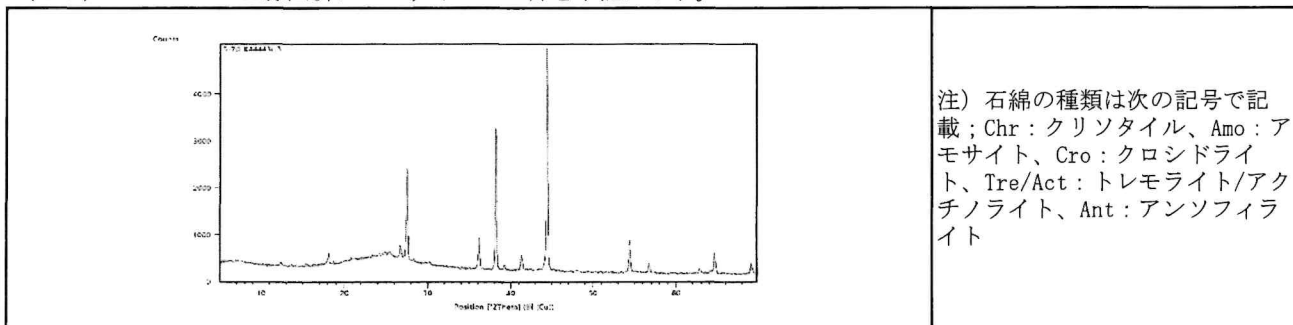
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械(株)	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): **K44443 j**

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

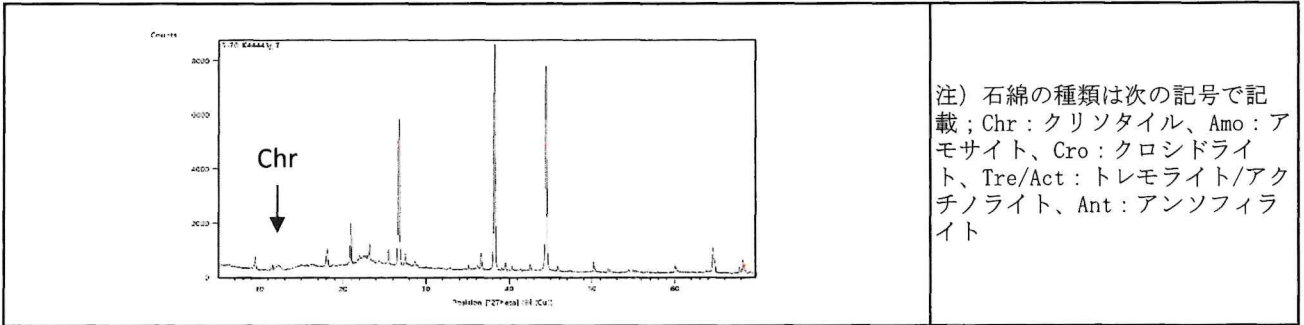
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)		メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)		安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC	加熱無し又は450°C、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical	管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon	PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille	1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

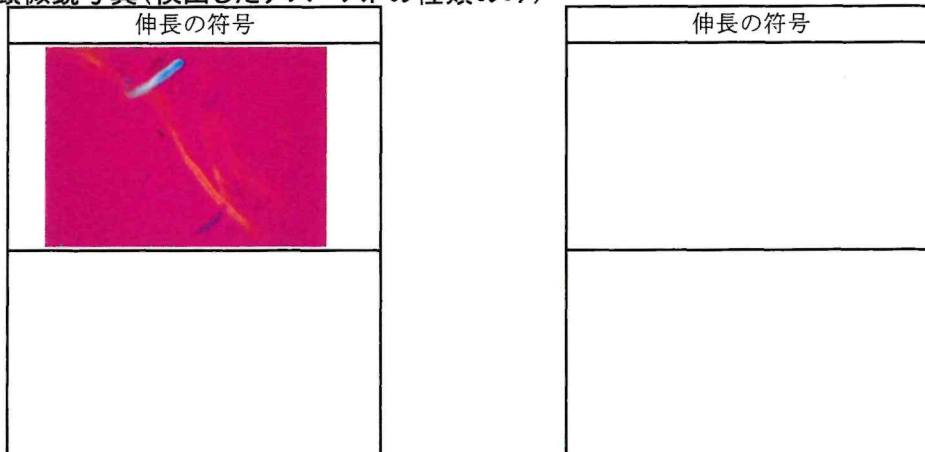
位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったので撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	石綿の有無
クリソタイル	有	4	有	有
アモサイト	無	計数せず	無	無
クロシドライト	無	計数せず	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	計数せず	無	無
アンソフィライト	無	計数せず	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)



# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 k

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械(株)	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
			PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65po1
			1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影していません。本試験でも特別にご依頼がなかったので撮影していません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 1
2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

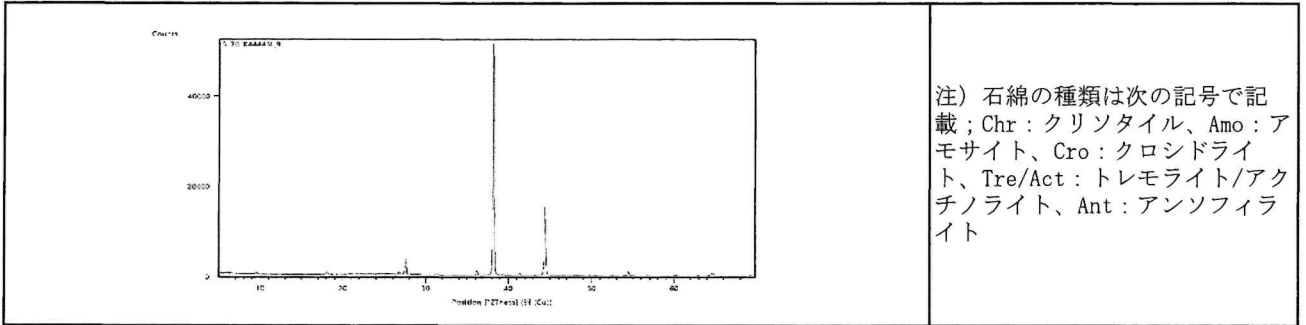
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
			1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 m

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

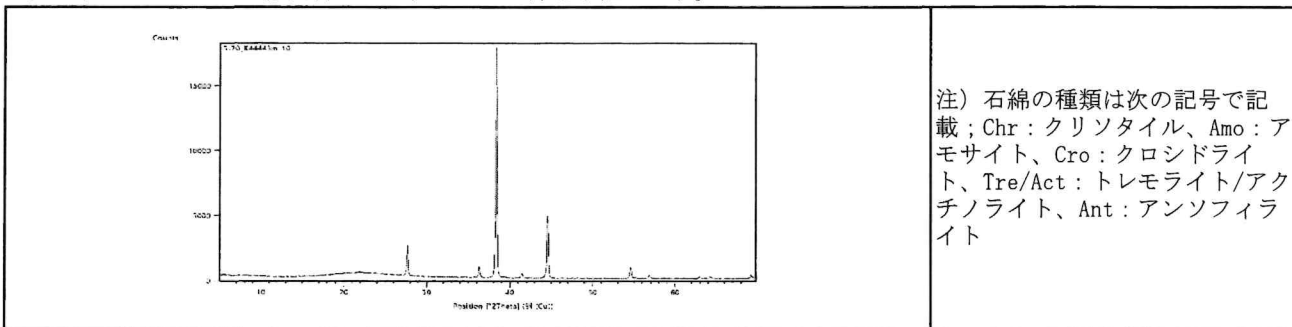
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 $\mu$ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2  $\theta$ ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法 回折線ピークの有無	分散染色法		
		3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/ アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 n

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

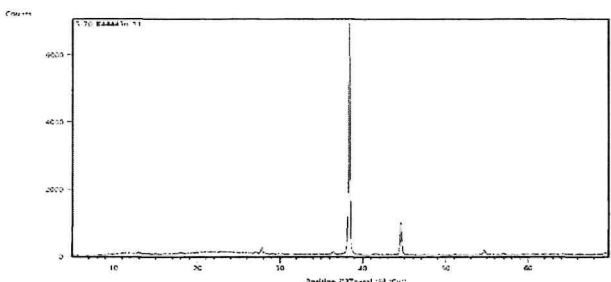
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25°C)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

	<p>注) 石綿の種類は次の記号で記載 ; Chr : クリソタイル、Amo : アモサイト、Cro : クロシドライト、Tre/Act : トレモライト/アクチノライト、Ant : アンソフィライト</p>
---	--

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 o

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

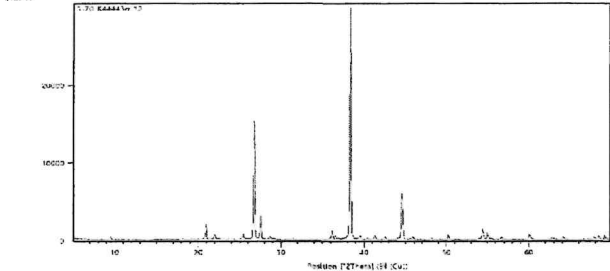
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~ 70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。

	<p>注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト</p>
---	--

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影していません。本試験でも特別にご依頼がなかったので撮影していません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 p

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

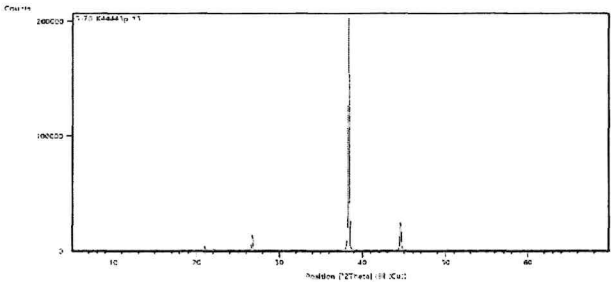
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC 加熱無し又は450℃、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical 管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille 1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を示す。

	<p>注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト</p>
---	--

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/ アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 g

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械(株)	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
			PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
			1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を示す。

注) 石綿の種類は次の記号で記載; Chr: クリソタイル、Amo: アモサイト、Cro: クロシドライト、Tre/Act: トレモライト/アクチノライト、Ant: アンソフィライト

4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	石綿の有無
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/ アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 r

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

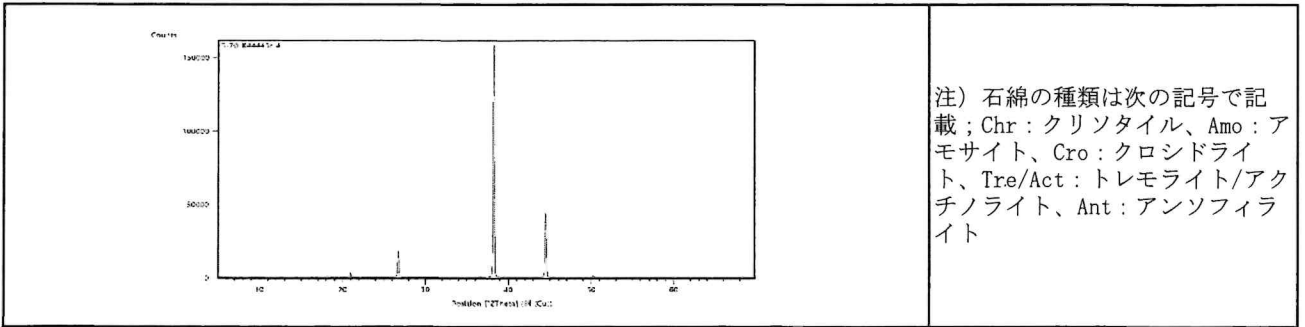
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~ 70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったので撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/ アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 s

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

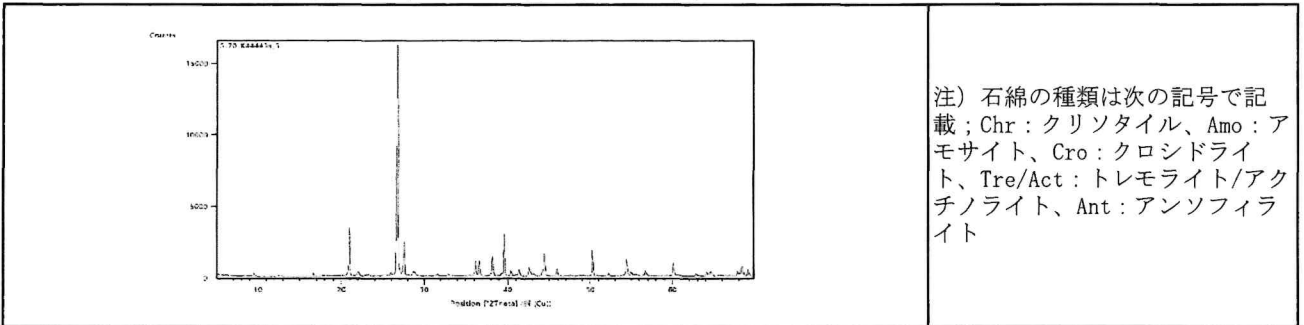
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
	浸液	Cargille	1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~ 70° のX線回折プロファイルの一部を示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったので撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 t

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

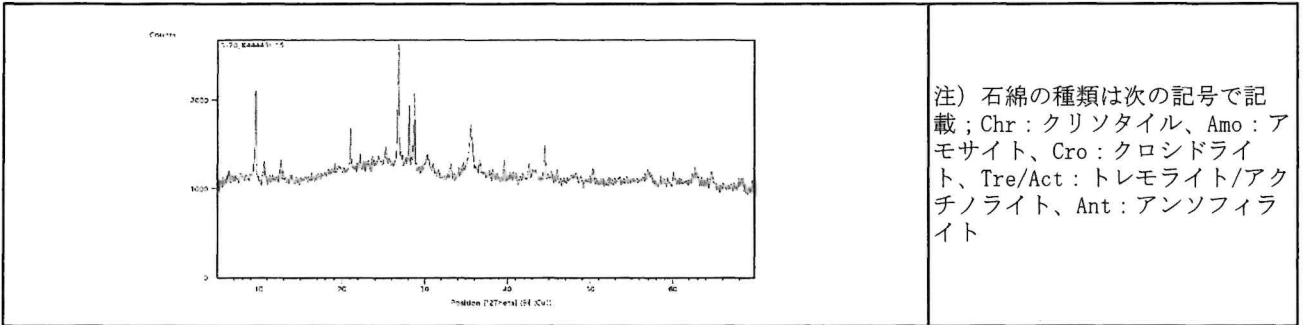
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon
		浸液	Cargille
			1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	0	無	無
アモサイト	無	0	無	無
クロシドライト	無	0	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	0	無	無
アンソフィライト	無	0	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 u

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

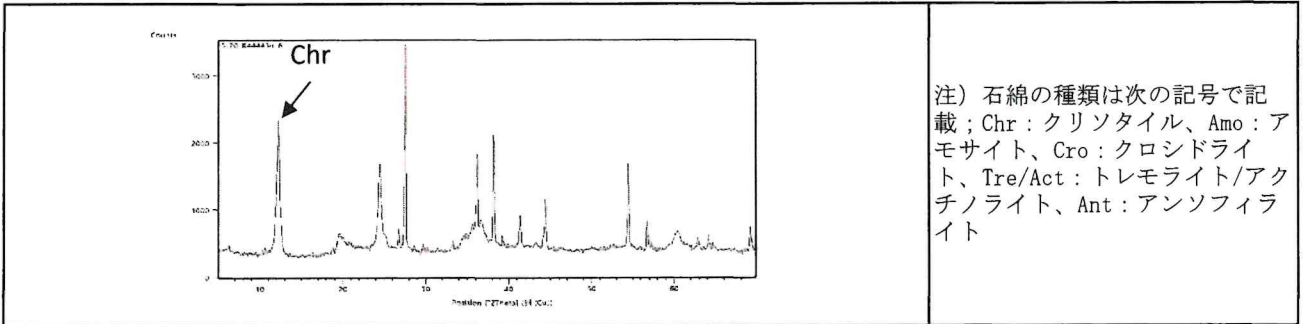
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC 加熱無し又は450℃、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical 管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille 1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~ 70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について


位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		石綿の有無
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	有	4	有	有
アモサイト	無	計数せず	無	無
クロシドライト	無	計数せず	無	無
トレモライト/アクチノライト	無	計数せず	無	無
アンソフィライト	無	計数せず	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号
	

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): K44443 v

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部: 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

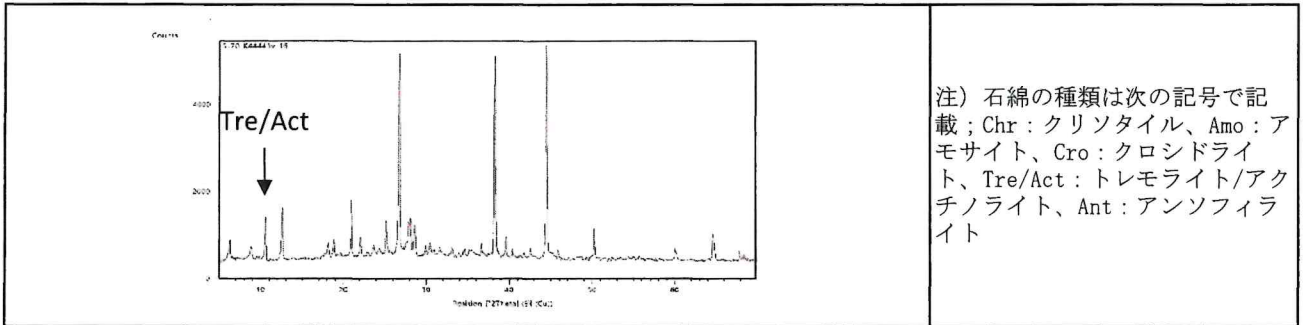
3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)	メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)	安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	500 μm
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	加熱無し又は450℃、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical 管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon PlanFluor DM, DS2, Nikon40×/0.65pol
		浸液	Cargille 1.550, 1.618, 1.620, 1.626, 1.680, 1.690 (分析室の温度25℃)

4. 定性分析結果

4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2θ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

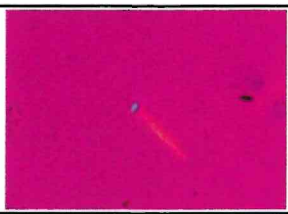
位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

4.3 X線回折分析法及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	計数せず	無	無
アモサイト	無	計数せず	無	無
クロシドライト	無	計数せず	無	無
トレモライト/アクチノライト	有	4	有	有
アンソフィライト	無	計数せず	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

4.4 (参考)偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号
	

# アスベスト検査記録

1. 試料番号(検査記録No.): **K44443 w**

2. 規格: 建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法(JIS A 1481-2:2016)

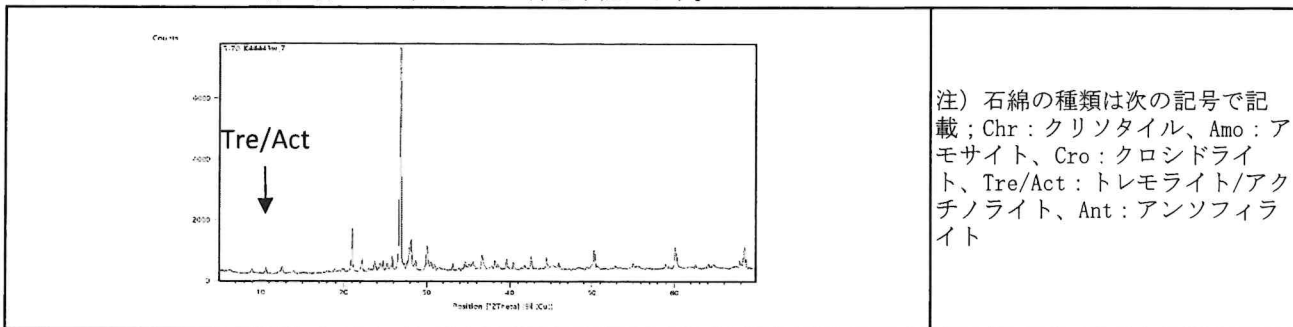
## 3. 試料粉碎方法・使用した測定機器・X線回折装置の定性条件

分析操作	分析装置名(型番)		メーカー名	条件等
粉碎	マルチビーズショッカー (PM2000)		安井器械㈱	-
ふるい	標準ふるい	-	-	500 $\mu$ m
加熱処理	加熱炉装置	FUL230FA	ADVANTEC	加熱無し又は450°C、60分
X線回折	X線回折装置	Empyrean Series2	PANalytical	管電圧40kv, 管電流40mA, 走査速度2° /分
位相差・分散顕微鏡	位相差・分散顕微鏡装置	ECLIPSE LV100	Nikon	PlanFluor DM, DS2, Nikon40 $\times$ /0.65pol
		浸液	Cargille	1. 550, 1. 618, 1. 620, 1. 626, 1. 680, 1. 690 (分析室の温度25°C)

## 4. 定性分析結果

### 4.1 X線回折分析による定性分析結果

(2 $\theta$ ) 5° ~70° のX線回折プロファイルの一部を下記に示す。



### 4.2 位相差分散顕微鏡法の写真について

位相差顕微鏡法による計数は実施しておりますが、位相差分散顕微鏡法の写真は粒子付着が多い等により解像度が悪い場合が多く、ご依頼が無ければ撮影しておりません。本試験でも特別にご依頼がなかったため撮影しておりません。

### 4.3 X線回折分析及び位相差・分散顕微鏡法の定性結果に基づく判定

石綿の種類	定性分析結果			石綿含有判定結果
	X線回折分析法	分散染色法		
	回折線ピークの有無	3000粒子中のアスペクト比3以上の繊維数	石綿の有無	
クリソタイル	無	計数せず	無	無
アモサイト	無	計数せず	無	無
クロシドライト	無	計数せず	無	無
トレモライト/アクチノライト	有	27	有	有
アンソフィライト	無	計数せず	無	無

備考: X線回折ピークがあり分散顕微鏡で繊維が4本未満の場合は分散染色法の再分析を行った結果です。

### 4.4 <参考>偏光顕微鏡写真(検出したアスベストの種類のみ)

伸長の符号	伸長の符号

## (参考資料)アスベストの偏光顕微鏡観察例(伸長の符号)

JISA-1481-1:2016の定性分析法の一つに偏光顕微鏡を用いる方法があります。偏光顕微鏡を用いてアスベストの複数の光学的特性を調べますが、光学的特性の一つに繊維の高屈折率及び低屈折率の方向を示す伸長の符号があります。屈折率の高い方が繊維の長さ方向と平行な場合は繊維は正方向とされ、屈折率の低い方が繊維の長さ方向と平行な場合は繊維は負方向と表されます。下記に、6種類のアスベストの偏光顕微鏡観察例(伸長の符号)を示します。

クリソタイル



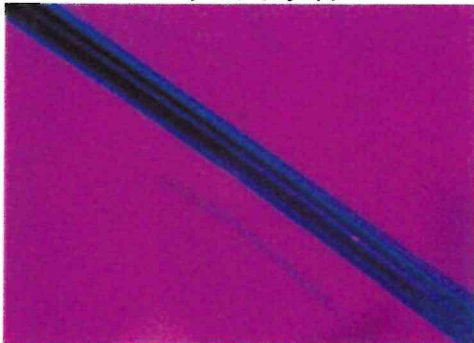
正の繊維[北西-南東方向の繊維がだいたい(橙)黄色]

アモサイト



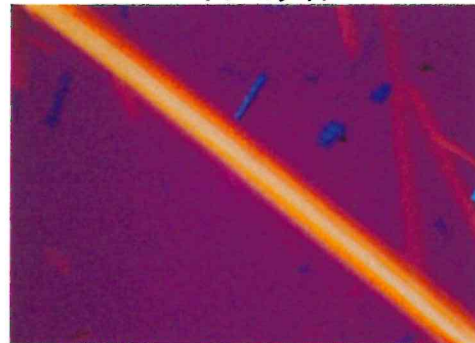
正の繊維[北西-南東方向の繊維がだいたい(橙)黄色]

クロシドライト



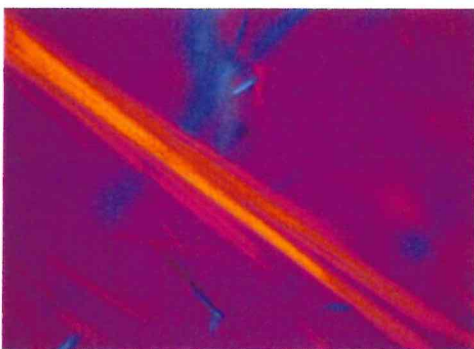
負の繊維[北西-南東方向の繊維が青緑]

トレモライト



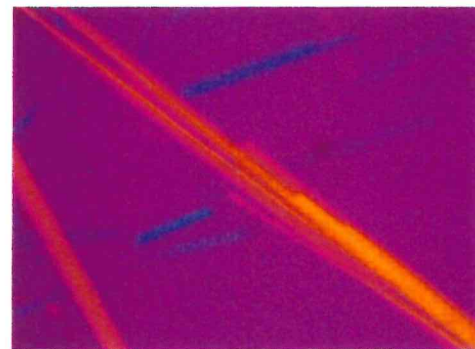
正の繊維[北西-南東方向の繊維がだいたい(橙)黄色]

アクチノライト



正の繊維[北西-南東方向の繊維がだいたい(橙)黄色]

アンソファイライト



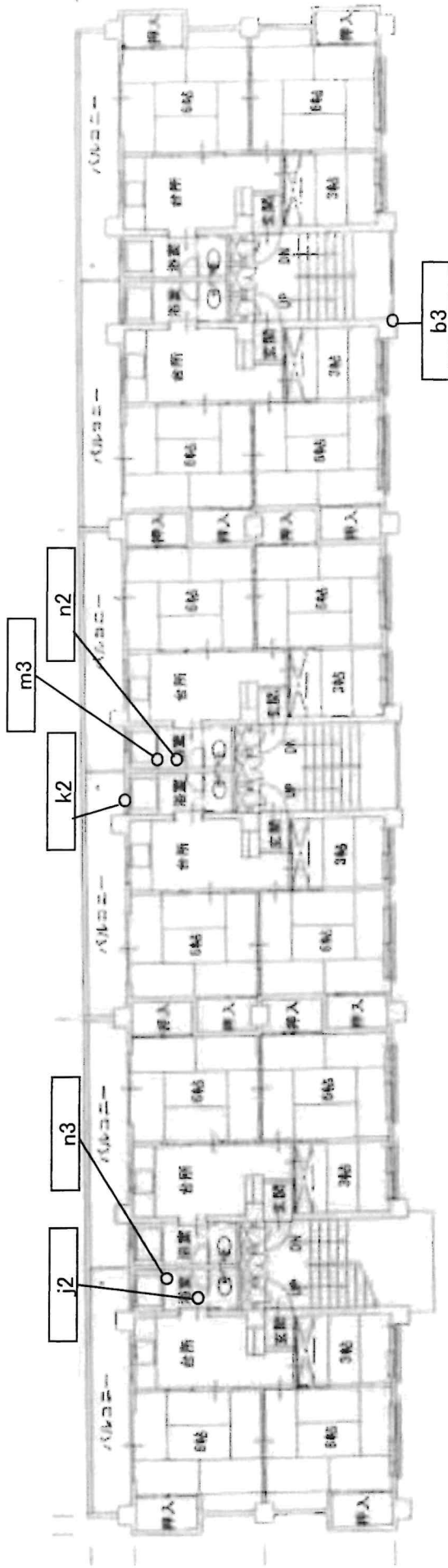
正の繊維[北西-南東方向の繊維がだいたい(橙)黄色]

株式会社エルエフ関西

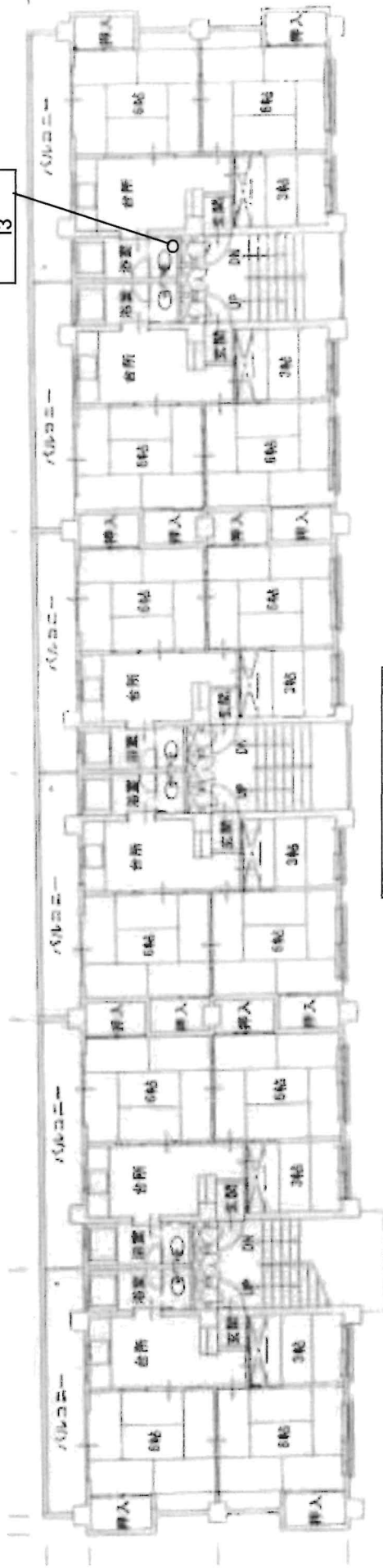
採取位置図



採取位置図

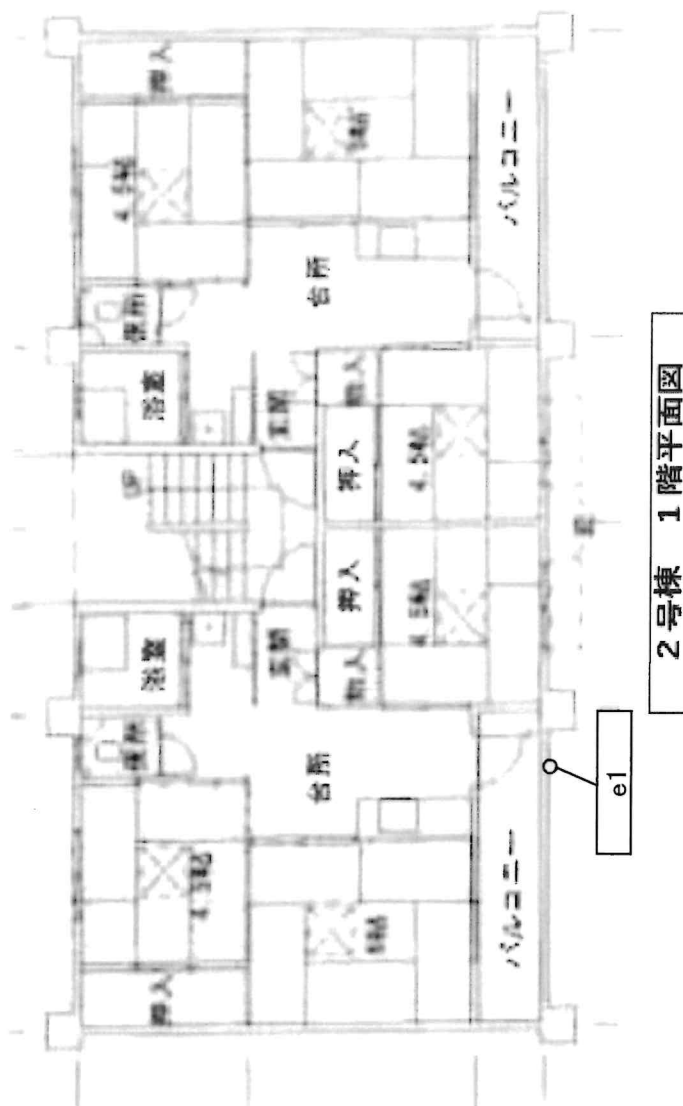


1号棟 1階平面図



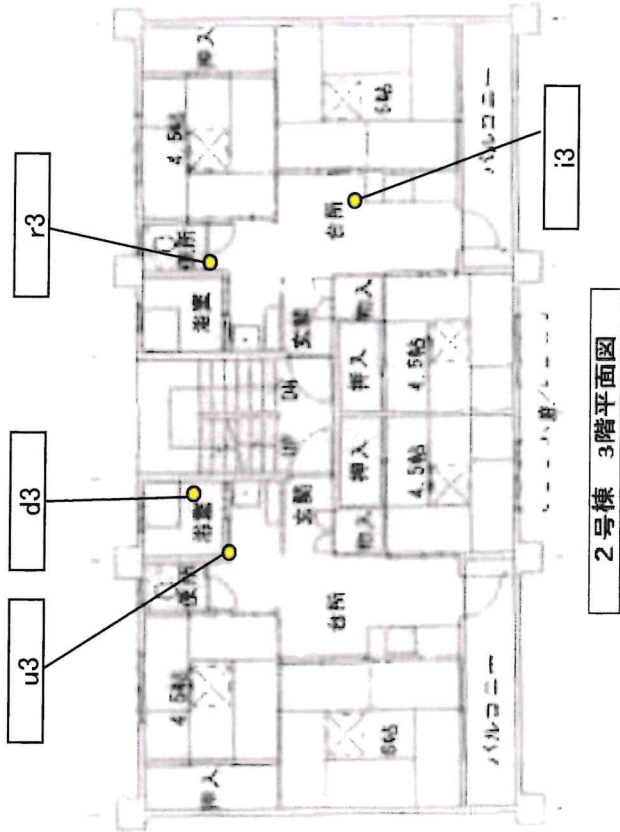
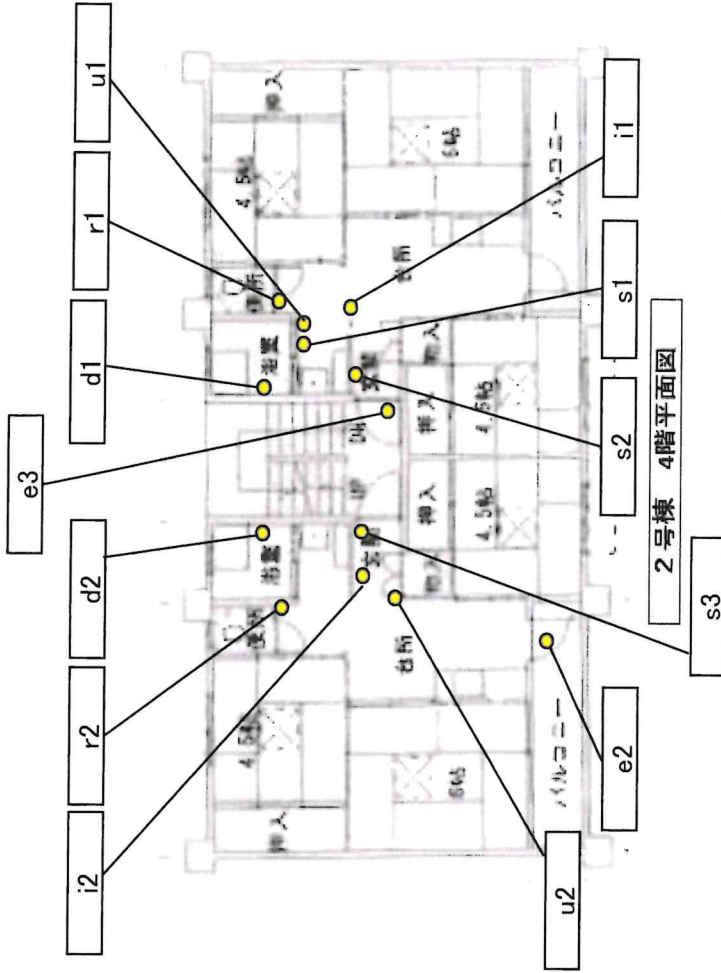
1号棟 2階平面図

採取位置図

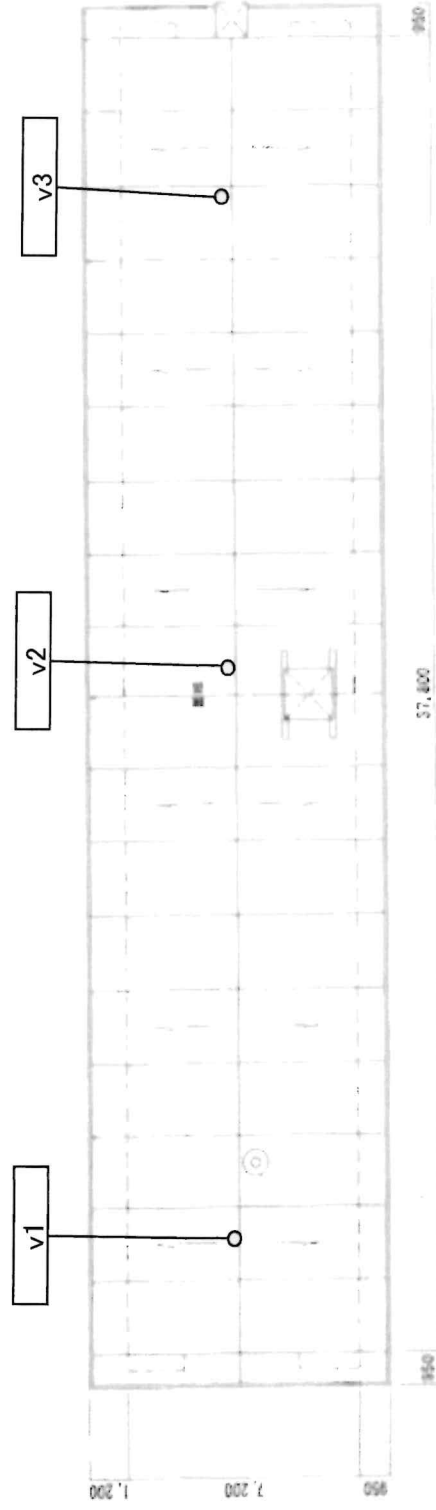


2号棟 1階平面図

採取位置図

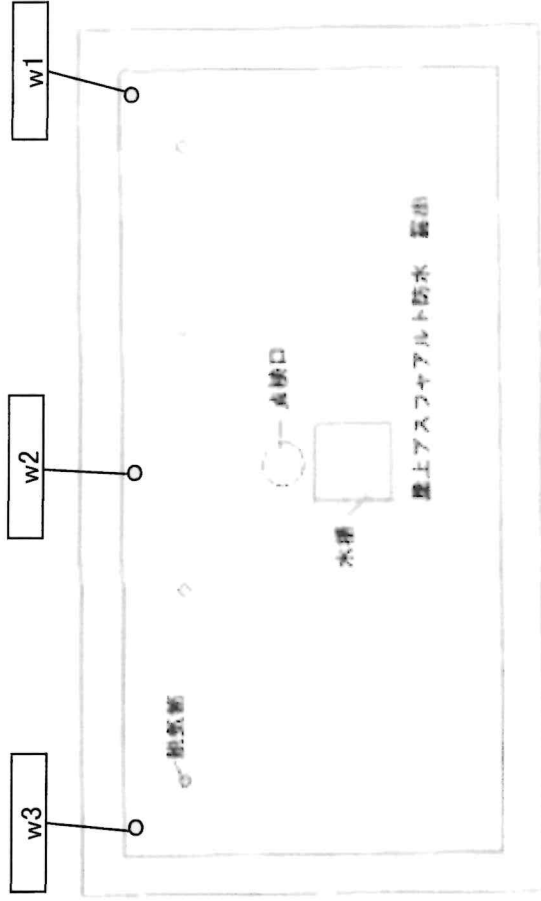


採取位置図



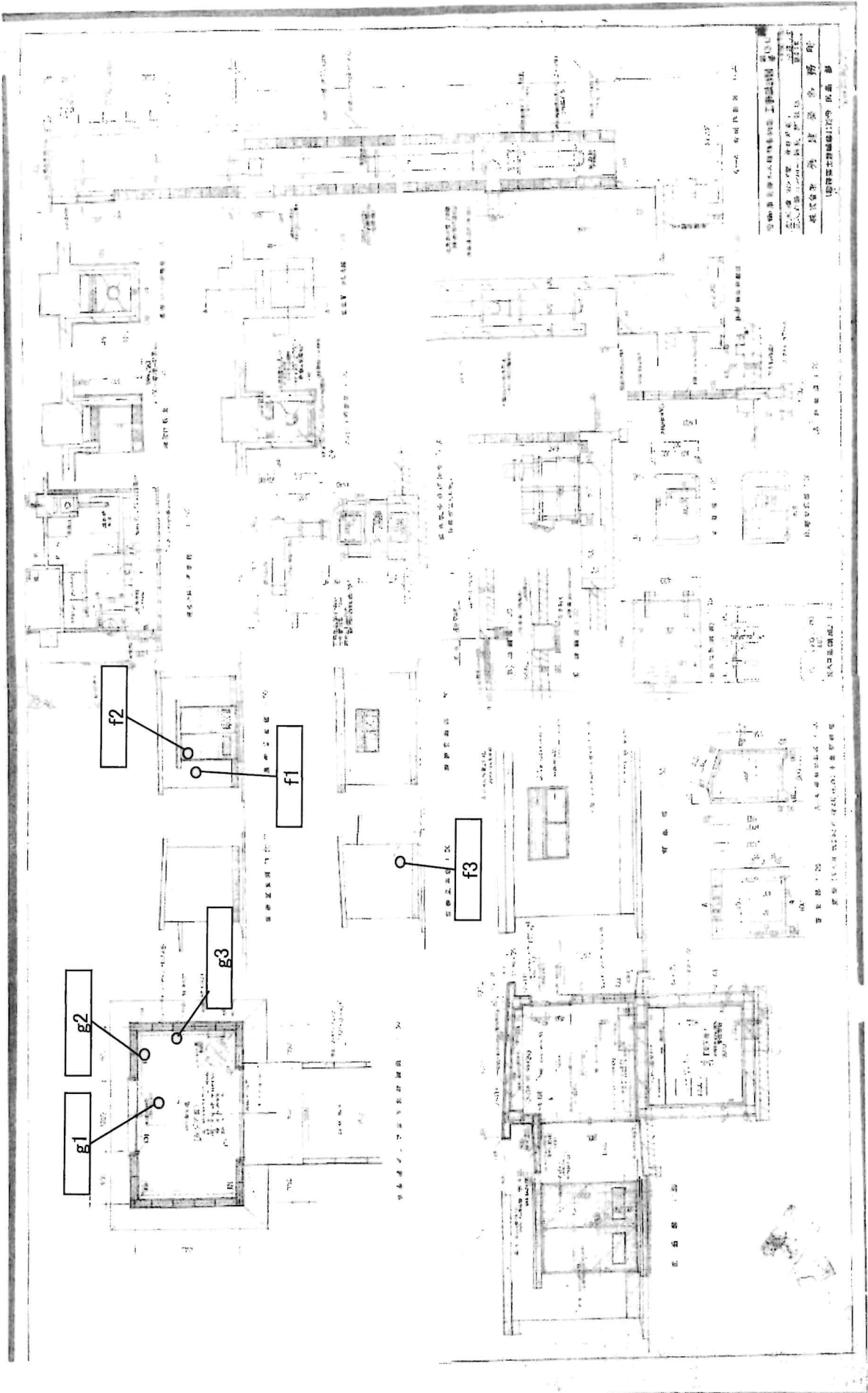
1号棟 屋根伏図

採取位置図



2号棟 屋根伏図

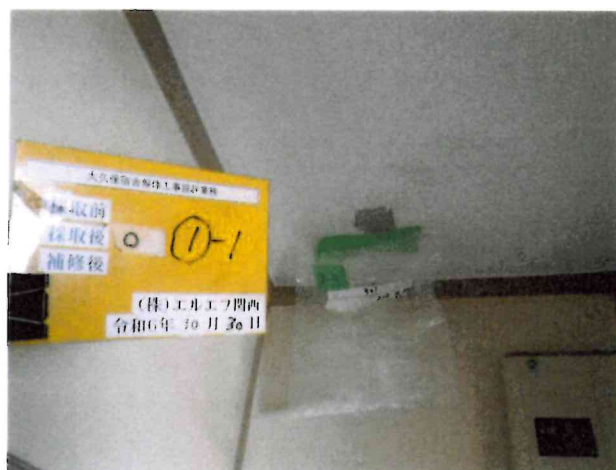
採取位置図



試料採取状況写真



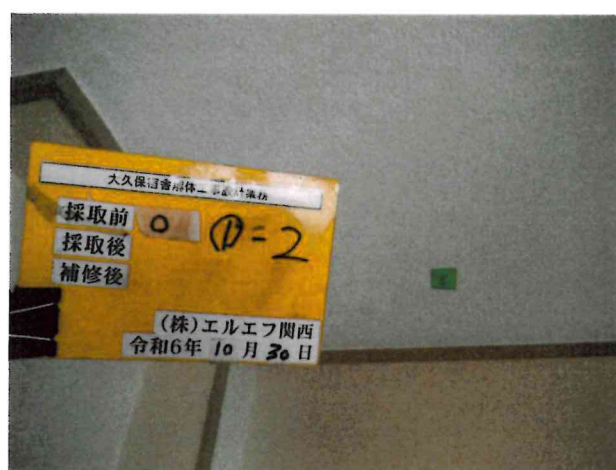
1.a1 採取前



2.a1 採取後



3.a1 簡易復旧



4.a2 採取前



5.a2 採取後



6.a2 簡易復旧

試料採取状況写真



7.a3 採取前



8.a3 採取後



9.a3 簡易復旧



10.b1 採取前



11.b1 採取後

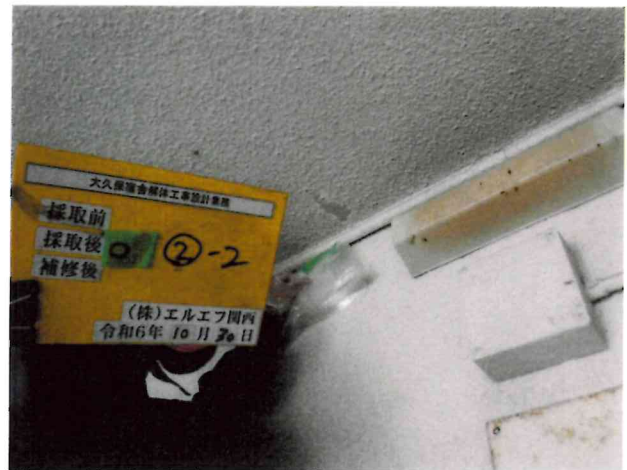


12.b1 簡易復旧

試料採取状況写真



13.b2 採取前



14.b2 採取後



15.b2 簡易復旧



16.b3 採取前



17.b3 採取後



18.b3 簡易復旧

試料採取状況写真



19.c1 採取前



20.c1 採取後



21.c1 簡易復旧



22.c2 採取前



23.c2 採取後



24.c2 簡易復旧

試料採取状況写真



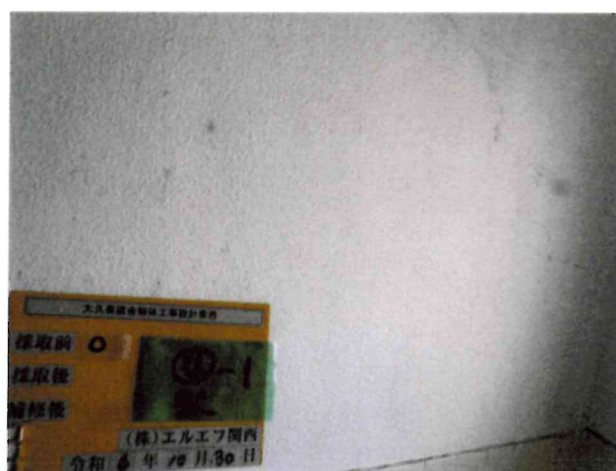
25.c3 採取前



26.c3 採取後



27.c3 簡易復旧



28.d1 採取前



29.d1 採取後



30.d1 簡易復旧

試料採取状況写真



31.d2 採取前



32.d2 採取後



33.d2 簡易復旧



34.d3 採取前



35.d3 採取後



36.d3 簡易復旧

試料採取状況写真



37.e1 採取前



38.e1 採取後



39.e1 簡易復旧



40.e2 採取前



41.e2 採取後



42.e2 簡易復旧

試料採取状況写真



43.e3 採取前



44.e3 採取後



45.e3 簡易復旧



46.f1 採取前



47.f1 採取後



48.f1 簡易復旧

試料採取状況写真



49.f2 採取前



50.f2 採取後



51.f2 簡易復旧



52.f3 採取前

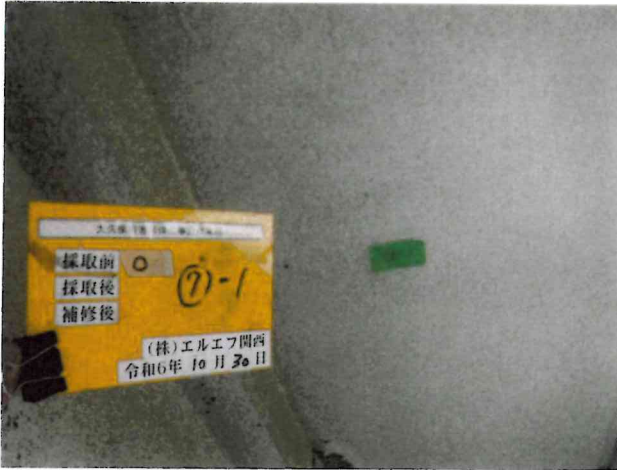


53.f3 採取後



54.f3 簡易復旧

試料採取状況写真



55.g1 採取前



56.g1 採取後



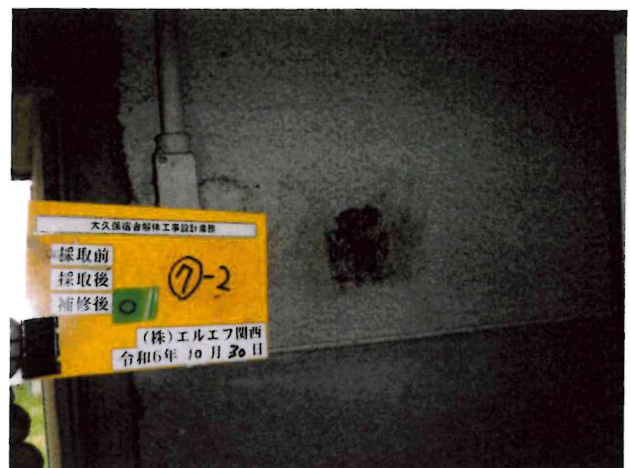
57.g1 簡易復旧



58.g2 採取前



59.g2 採取後



60.g2 簡易復旧

試料採取状況写真



揚水ポンプ設備

61.g3 採取前



62.g3 採取後



63.g3 簡易復旧



64.h1 採取前



65.h1 採取後



66.h1 簡易復旧

試料採取状況写真



67.h2 採取前



68.h2 採取後



69.h2 簡易復旧



70.h3 採取前



71.h3 採取後



72.h3 簡易復旧

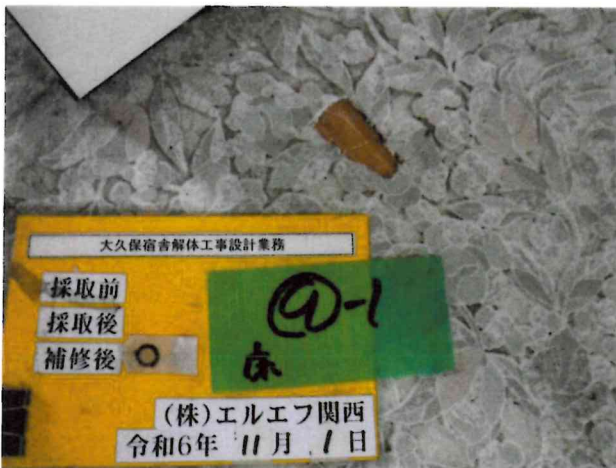
試料採取状況写真



73.i1 採取前



74.i1 採取後



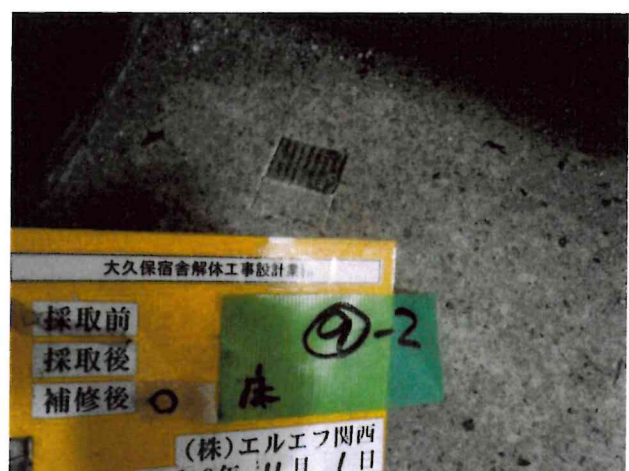
75.i1 簡易復旧



76.i2 採取前



77.i2 採取後



78.i2 簡易復旧

試料採取状況写真



79.i3 採取前



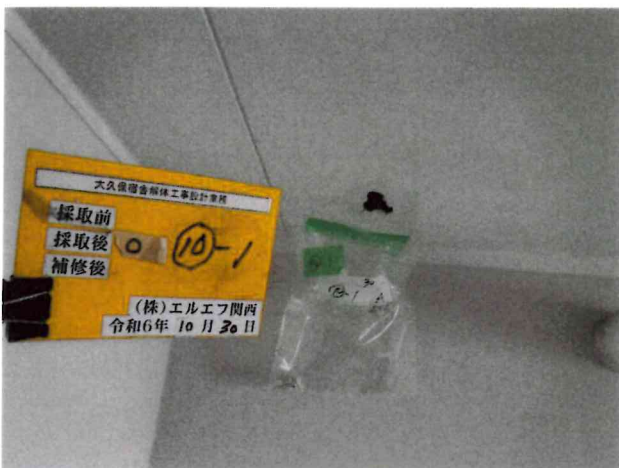
80.i3 採取後



81.i3 簡易復旧



82.j1 採取前



83.j1 採取後



84.j1 簡易復旧

試料採取状況写真



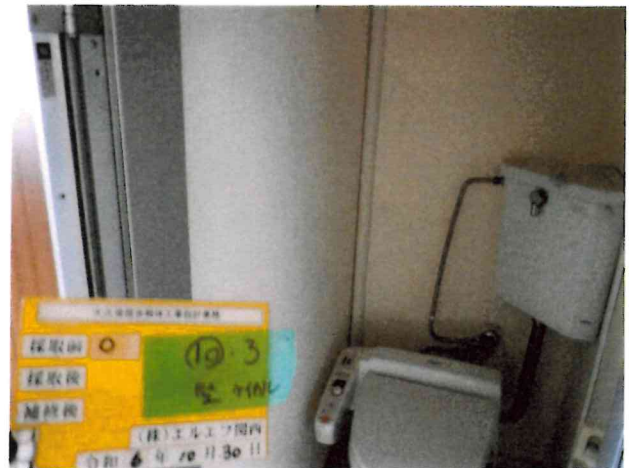
85.J2 採取前



86.J2 採取後



87.J2 簡易復旧



88.J3 採取前



89.J3 採取後



90.J3 簡易復旧

試料採取状況写真



91.k1 採取前



92.k1 採取後



93.k1 簡易復旧



94.k2 採取前



95.k2 採取後



96.k2 簡易復旧

試料採取状況写真



97.k3 採取前



98.k3 採取後



99.k3 簡易復旧



100.l1 採取前



101.l1 採取後



102.l1 簡易復旧

試料採取状況写真



103.12 採取前



104.12 採取後



105.12 簡易復旧



106.13 採取前



107.13 採取後



108.13 簡易復旧

試料採取状況写真



109.m1 採取前



110.m1 採取後



111.m1 簡易復旧



112.m2 採取前



113.m2 採取後



114.m2 簡易復旧

試料採取状況写真



115.m3 採取前



116.m3 採取後



117.m3 簡易復旧



118.n1 採取前



119.n1 採取後



120.n1 簡易復旧

試料採取状況写真



121.n2 採取前



122.n2 採取後



123.n2 簡易復旧



124.n3 採取前



125.n3 採取後



126.n3 簡易復旧

試料採取状況写真



127.o1 採取前



128.o1 採取後



129.o1 簡易復旧



130.o2 採取前



131.o2 採取後



132.o2 簡易復旧

試料採取状況写真



133.o3 採取前



134.o3 採取後



135.o3 簡易復旧



136.p1 採取前



137.p1 採取後



138.p1 簡易復旧

試料採取状況写真



139.p2 採取前



140.p2 採取後



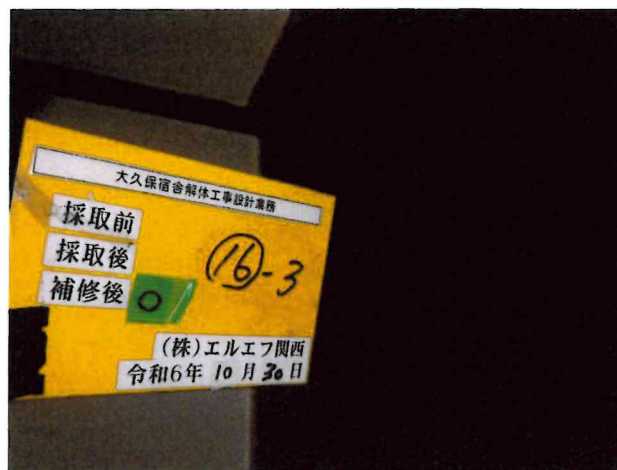
141.p2 簡易復旧



142.p3 採取前



143.p3 採取後



144.p3 簡易復旧

試料採取状況写真



145.q1 採取前



146.q1 採取後



147.q1 簡易復旧



148.q2 採取前



149.q2 採取後



150.q2 簡易復旧

試料採取状況写真



151.q3 採取前



152.q3 採取後



153.q3 簡易復旧



154.r1 採取前



155.r1 採取後

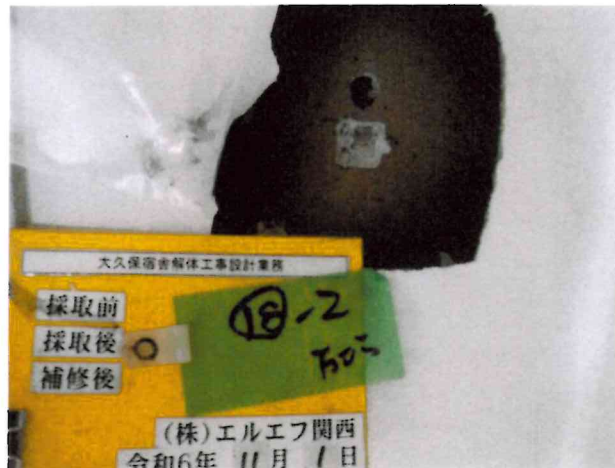


156.r1 簡易復旧

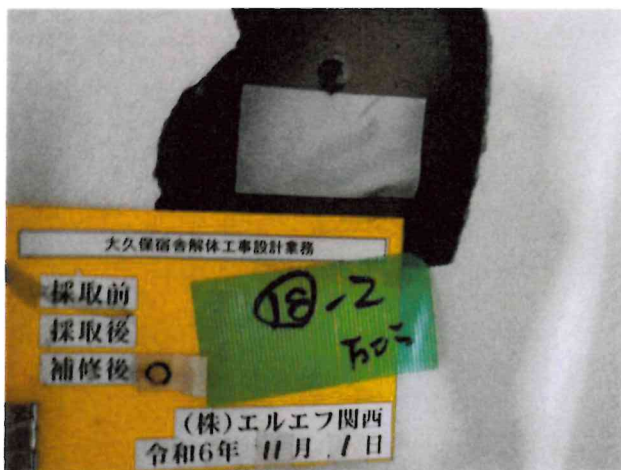
試料採取状況写真



157.r2 採取前



158.r2 採取後



159.r2 簡易復旧



160.r3 採取前



161.r3 採取後



162.r3 簡易復旧

試料採取状況写真



163.s1 採取前



164.s1 採取後



165.s1 簡易復旧



166.s2 採取前



167.s2 採取後



168.s2 簡易復旧

試料採取状況写真



169.s3 採取前



170.s3 採取後



171.s3 簡易復旧



172.t1 採取前



173.t1 採取後



174.t1 簡易復旧

試料採取状況写真



175.t2 採取前



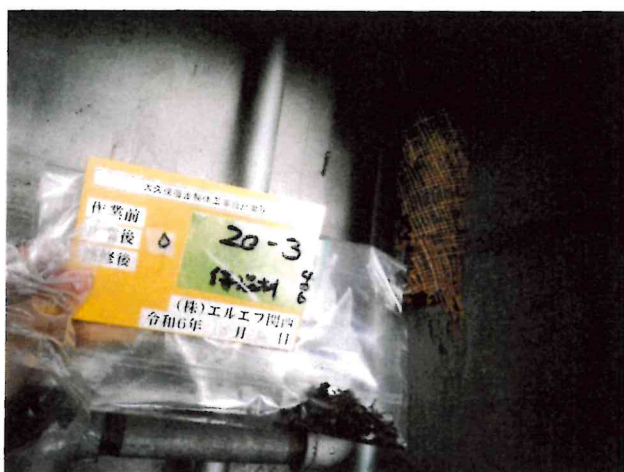
176.t2 採取後



177.t2 簡易復旧



178.t3 採取前



179.t3 採取後



180.t3 簡易復旧

試料採取状況写真



181.u1 採取前



182.u1 採取後



183.u1 簡易復旧



184.u2 採取前



185.u2 採取後

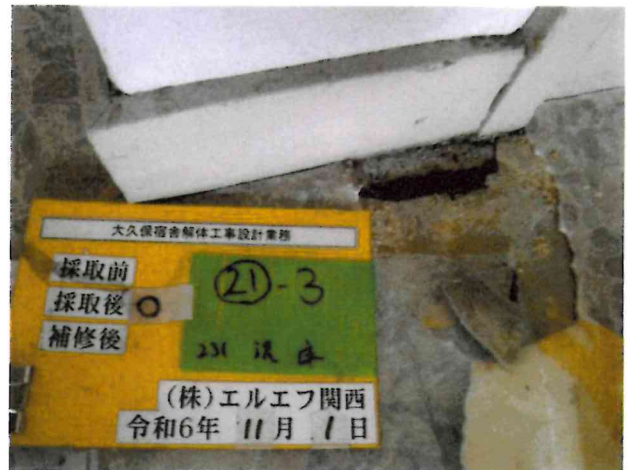


186.u2 簡易復旧

試料採取状況写真



187.u3 採取前



188.u3 採取後



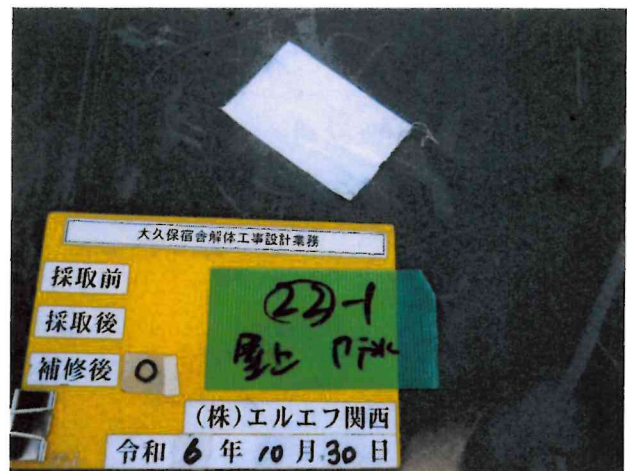
189.u3 簡易復旧



190.v1 採取前



191.v1 採取後



192.v1 簡易復旧

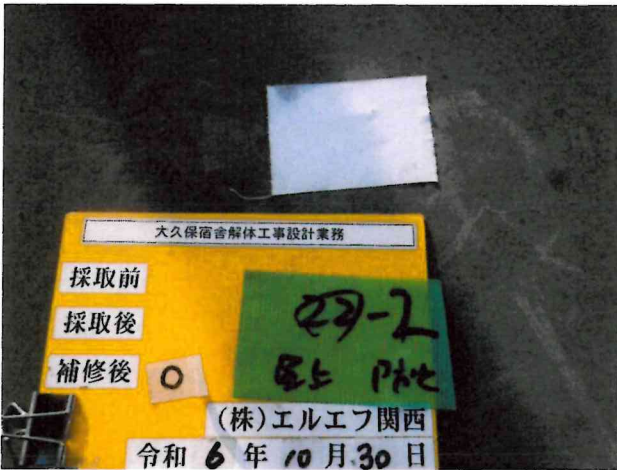
試料採取状況写真



193.v2 採取前



194.v2 採取後



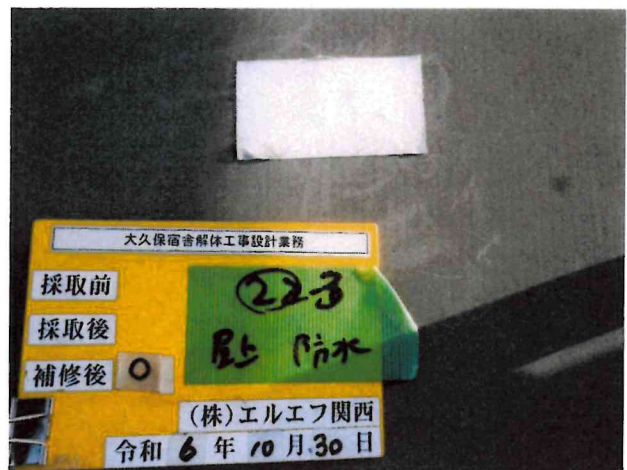
195.v2 簡易復旧



196.v3 採取前



197.v3 採取後



198.v3 簡易復旧

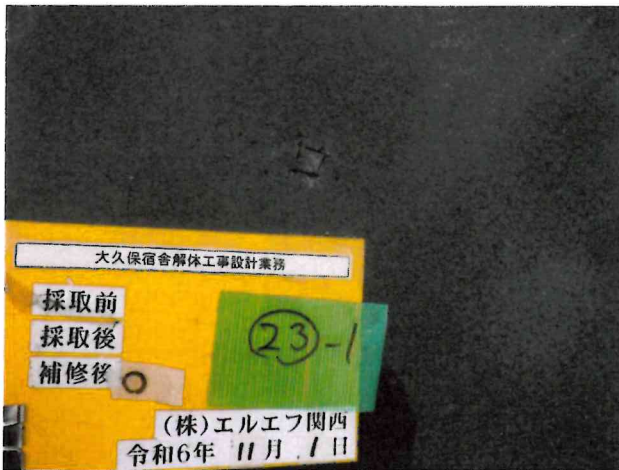
試料採取状況写真



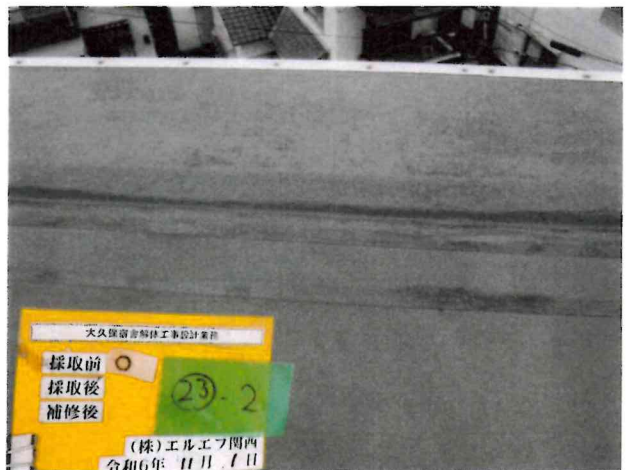
199.w1 採取前



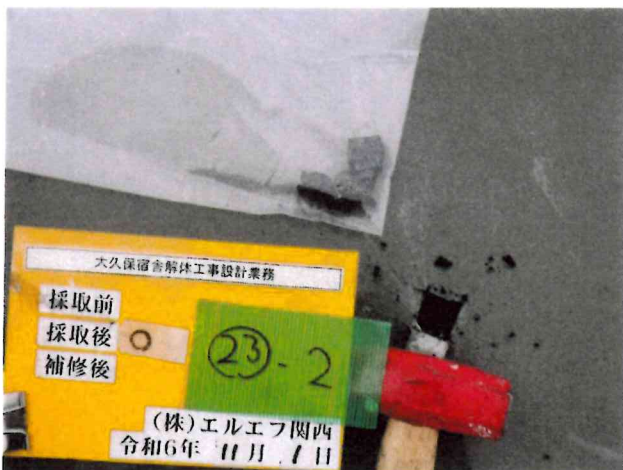
200.w1 採取後



201.w1 簡易復旧



202.w2 採取前



203.w2 採取後



204.w2 簡易復旧

試料採取状況写真



205.w3 採取前



206.w3 採取後



207.w3 簡易復旧